

令和7年3月31日

農学部学務グループ

令和7年度農学部履修案内の修正・訂正票

下記のとおり、修正・訂正がございましたので訂正いたします。

(訂正履歴)

1. 3月31日訂正

- (1) 履修案内 p.16 「卒業に必要な最低修得単位数」

訂正前) 地域総合農学科 農業科学コース

訂正後) 地域総合農学科 応用植物科学コース

- (2) 履修案内 p.19 「12. 農学部において取得できる資格等」食品衛生管理者及び食品衛生監視員の2つめの※部分

訂正前) 取得希望者は、p.54を参照すること

訂正後) 取得希望者は、p.48を参照すること

- (3) 履修案内 p.24-25 「食生命科学科 選択必修④ 注釈」

訂正前) 10単位を超えて修得した科目の単位数は自由履修科目として認定する(専門科目86単位には含めない)。

訂正後) 10単位を超えて修得した食生命科学海外講義の単位数は自由履修科目として認定する(専門科目86単位には含めない)。

学生番号	
氏 名	

令和 7 年度
農学部履修案内

茨城大学農学部

【この冊子について】

- ・ この冊子は令和7年度入学者を対象に作成されています。入学年度によって掲載内容が異なることがありますので、注意してください。
- ・ この冊子に掲載されている内容は変更される場合がありますが、その際は、掲示などで周知しますので、見落としのないよう注意してください。
- ・ この冊子は卒業するまで大切に保管するようにしてください。紛失しても、再度の配付は行いません。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are approximately 20 lines visible. The top corners of the paper are rounded. The paper appears to be part of a notebook or a binder, as there's a slight shadow on the right side suggesting it's bound.

目 次

茨城大学農学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	iv
I 農学部教育課程	1
1. 単 位	3
2. 履修手続	6
3. 履修上の注意	8
4. 試験およびレポート提出における注意	9
5. 成 績	11
6. 在学年限・修業年限	13
7. 学籍の異動	14
8. 早期卒業制度	15
9. 農学部カリキュラム	16
10. 入学前の既修得単位認定について	18
11. 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について	18
12. 農学部において取得できる資格等	19
II 専門科目課程表	21
1. 食生命科学科	24
2. 地域総合農学科 応用植物科学コース	26
3. 地域総合農学科 地域共生コース	28
4. 地域総合農学科 地域共生コース 特別カリキュラム（測量士補）	30
5. 教育職員免許状取得のための履修案内	33

Ⅲ	教育プログラム	45
	プラスiプログラム	47
	食品衛生管理者等任用資格プログラム履修要項	48
	農学分野データサイエンス教育プログラム履修要項	50
Ⅳ	学生生活	53
	1. 保健室	55
	2. 保険制度	56
	3. 困りごとや悩みごとの相談	56
	4. ハラスメントの相談	58
	5. 修学および学生生活上の相談	58
	6. 農学部における学生支援	59
	付録	61
	1. 阿見地区（農学部）配置図	63
	2. 農学部講義棟、こぶし会館平面図	64
	3. フードイノベーション棟平面図	65
	4. 農学部事務棟、実験研究棟平面図	66
	5. 茨城大学農学部オフィスアワー（令和7年度）	70
	6. 各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）	72

茨城大学のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

○ディプロマ・ポリシー

茨城大学の教育目標は、変化の激しい 21 世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成することである。そのために茨城大学の学生が卒業する時に身に付けているべき能力を、以下に示す5つの知識及び能力で構成されるディプロマ・ポリシー(卒業基準)として定める。これら5要素の比重は分野毎に異なるが、茨城大学を卒業する学生は、どの分野で学んだとしてもこれらの知識・能力を備えていることが必要である。

- ① (世界の俯瞰的理解) 自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解
- ② (専門分野の学力) 専門職業人としての知識・技能および専門分野における十分な見識
- ③ (課題解決能力・コミュニケーション力) グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力
- ④ (社会人としての姿勢) 社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性
- ⑤ (地域活性化志向) 茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

○カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに示す茨城大学の教育目標を実現するためカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を以下に示す。

- ① (教育課程の編成) ディプロマ・ポリシーで定めた5つの能力を育成するため、共通教育と専門教育からなる4年あるいは6年一貫の体系的な教育課程を編成する。
- ② (課題解決能力の育成) 課題解決力を育み、学生が自らの理想に基づいた将来を切り拓く基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するため、共通教育及び専門教育でそれぞれの特色を生かしたアクティブ・ラーニング科目を充実させる。
- ③ (実践的英語能力の養成) グローバル化が進む地域や職域での活動を支える実践的英語能力を共通教育、及び専門分野に即した形で専門教育において養成する。
- ④ (地域・国際志向と態度を育成する教育の推進) 共通教育及び専門教育のそれぞれにおいて、地域の理解と国際的な視野を育み、異なる地域や分野、文化的背景をもった人達とのコミュニケーション力や協働性を育成する科目を充実させる。
- ⑤ (教育の質の保証) 丁寧な学修ガイドにより学生の主体的な学びを促進し、単位の実質化を図るとともに、各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行う。学修成果の可視化に努め、教職員と学生の相互協力と点検により不断の教育改善を推進する。

*ディプロマ・ポリシー(DP)とは、卒業基準・学位授与の方針を意味する。

*カリキュラム・ポリシー(CP)とは、教育課程の編成・実施方針を意味する。

農学部ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

農学部ディプロマ・ポリシー

茨城大学農学部教育目標は、国際的な視点による食料・食品の高度化及び農業を核とした新産業創出に主体的かつ意欲的に取り組み、地域の農業と地域コミュニティの活性化を支える実務型農学系人材を育成することである。そのために、茨城大学が卒業生に求める資質に加え、農学部の学生が卒業時に身に付けているべき5つの能力をディプロマ・ポリシーとして定める。

【世界の俯瞰的理解】多様な文化と価値観を持って、グローバル社会における農業・食料問題を包括的に理解している。

【専門分野の学力】総合科学としての農学分野の専門知識と技術を修得している。

【課題解決能力・コミュニケーション力】「生命を支える食料と食品」の課題を科学的視点から多面的に検討し、他者と協調しながら解決する能力を修得している。

【社会人としての姿勢】農学系専門職業人として、生涯にわたり主体的に学び続け、自然との共生社会の実現に貢献する意欲を有する。

【地域活性化志向】獲得した専門性を活かし、地域社会の持続的発展に寄与する意欲を有する。

食生命科学科ディプロマ・ポリシー

食生命科学科では、上記の農学部ディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力をディプロマ・ポリシーとして定める。

【専門分野の学力】動植物や微生物の生命現象に関する基礎を理解し、生命科学や食品科学に関する専門知識と技術を修得している。

【社会人としての姿勢】修得した知識や技術を、生物機能の高度利用や安全な食料・食品の生産、供給へと展開していくことができる総合力や創造力を修得している。

【課題解決能力・コミュニケーション力】高度職業人として様々な問題に対峙し、生命科学分野や食品分野で国際的に活躍できる思考力や語学力を修得している。

地域総合農学科ディプロマ・ポリシー

地域総合農学科では、上記の農学部ディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力をディプロマ・ポリシーとして定める。

【専門分野の学力】食や農に関する生産から販売までの一貫した専門知識・技能を修得している。

【課題解決能力・コミュニケーション力】地域社会の抱える課題を正確に把握する力を修得している。

【地域活性化志向】茨城県を中心とする関東圏北部を題材に地域産業振興や地域の発展に貢献できる思考力と行動力を身に付けている。

農学部カリキュラム・ポリシー

茨城大学農学部の実現するためのカリキュラム・ポリシーは以下のとおりである。

【**教育課程の編成**】ディプロマ・ポリシーに定めた5つの能力を育成するために、基盤教育科目と専門科目からなる4年間の体系的な教育課程を編成する。

【**課題解決能力の育成**】地域社会と連携した農学教育により、グローバル社会における課題に對峙するための深い洞察力と多面的視野による課題解決能力を醸成する。

【**実践的英語能力の育成**】基盤教育科目による英語の基礎力を礎に、農学系専門職業人としてグローバルに活躍するために必要な専門用語等に関する英語力を主に専門科目において学修させる。

【**地域理解と国際理解を育成する教育の推進**】地域及び海外をフィールドにした体験型実習や講義により社会の多様性を理解し、複雑な現代社会の課題を解決するための協調性、コミュニケーション能力等の汎用性能力を醸成する。

【**教育の質の保証**】学修時間の確保と厳格な成績評価により単位の実質化と可視化を図るとともに、教職員と学生の相互協力と点検により、変化が著しい農学分野に對應して不断の教育改善を推進する。

食生命科学科カリキュラム・ポリシー

食生命科学科では、上記の農学部カリキュラム・ポリシーに加えて、以下のカリキュラム・ポリシーを定める。

【**教育課程の編成**】生物の機能や生物資源の高度な利用法について理解させるために、動物、植物及び微生物についての生命現象、及びそれらの分子レベルから個体レベルに至る相互作用に関する基盤的な講義科目と発展的な専門講義科目、及び実験科目を体系的に学修させる。

また、食品の加工・流通の分野で国際的に活躍できる人材を育成するために、食品科学に関する知識・技術について、基盤的な講義科目と発展的な専門講義科目、及び実験科目を体系的に学修させる。

【**課題解決能力の育成**】生命科学や食品科学に関する専門知識と技術を修得させ、さらに卒業論文研究やゼミナール等を通して、バイオテクノロジーを駆使した生物機能の高度利用や安全な食料・食品の生産、供給に関する様々な問題を解決するための能力を育成する。

【**実践的英語能力の育成**】生命科学や食品分野で国際的に活躍できる思考力、語学能力を身に付けた農学系専門職業人を育成するために、その分野に関する実践的な英語教育を行う。

地域総合農学科カリキュラム・ポリシー

地域総合農学科では、上記の農学部カリキュラム・ポリシーに加えて、以下のカリキュラム・ポリシーを定める。

【**教育課程の編成**】農業生産に関する知識・技術から食料政策、農地や水の保全にわたる教育体系を整備するとともに、社会科学系科目を織り込んだ文理融合型の教育課程として応用植物科学コースと地域共生コースを編成する。応用植物科学コースでは農作物の生産と利用、品種改良及び病虫害防除等の植物防疫に関する専門的知識や技術の修得を目的とした教育を行う。また、地域共生コースでは農業や農村の持続的発展を実現するために、地域の農業生産力向上、新産業創出・地域づくりに必要な専門的知識や技術の修得を目的とした教育を行う。

【**課題解決能力の育成**】農産物の生産から加工・流通に至る1次産業から3次産業までの過程を総合的に理解させる分野横断型教育課程を編成する。この課程では農学の専門知識及び技術を総合的に活用し地域の課題を解決するとともに社会の創生・発展に繋げる思考力・行動力を養うための教育を推進する。

【**地域理解と国際理解を育成する教育の推進**】地域を題材にした課題解決型実習科目や海外のインターシップにより、地域の多様な課題を抽出し分析する能力を育成する。

I 農学部^の教育課程

1. 単 位

(1) 学期と授業

茨城大学では、4月1日から9月20日までを前学期、9月21日から3月31日までを後学期としています。授業は学期(セメスター)を通して実施されるもの、各学期をさらに半分に分け、1年間で4つの期間に分けたクォーターで実施されるものがあります。その他に、学期の区分を超え、年度を通じて実施される通年授業(通年科目)、また学期中の平日、土・日曜日、祝日又は休業期間中に集中的に実施される集中授業(集中科目)があります。

(2) 授業時間

授業時間は1講時当たり105分です。各講時の開始時刻及び終了時刻は次のとおりです。

講 時	1	2	3	4	5
授業時間	8:40～10:25	10:35～12:20	13:10～14:55	15:05～16:50	17:00～18:45

(3) 単位と学修時間

各授業は、45時間の学修を必要とする内容(予習・復習など授業時間外学修を含む)をもって1単位と定められています。

(4) 単位の修得

授業を履修し、その試験等の成績が合格となった場合は、所定の単位が与えられます。ただし、単位を修得するためには、原則として授業の出席時数が、その授業科目の総授業時間数の3分の2に達する必要があります。

(5) 本学が定める「やむを得ない事情」による欠席

授業を欠席することが事前に分かっている場合は、速やかに授業担当教員にその旨連絡してください。そのとき「やむを得ない事情」(下記①～④)により授業を欠席した場合には、願い出により、補講の受講又は学修課題等の提出により、当該授業を出席したと取り扱われます。

学生は、「やむを得ない事情」により授業を欠席した場合は、一週間以内に各授業担当教員へその旨を連絡すると共に、学務グループに連絡し根拠資料(原本)を提出してください。また、複写した同根拠資料を各授業担当教員に提出してください。なお、根拠資料が提出されない場合、補講の受講又は学修課題等の対応を認めることができないこともあるので注意してください。

また、集中講義など特定の授業において、補講又は学修課題等を課することが困難なため本対応の対象外とする場合には、シラバス等で明示します。

<本学が定める「やむを得ない事情」>

① 学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)第18条に規定する感染症に罹患した場合(注1)(注2)

② 忌引き(注3)

③ 裁判員制度

④ 公共交通機関の運行停止

これ以外の事情がある場合は、授業担当教員の判断によります。

(注1) 学校保健安全法施行規則18条に規定する感染症

第1種感染症:

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイ

ルスであるものに限る。)及び特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症

第2種感染症:

インフルエンザ(特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く。)、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

第3種感染症:

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

(注2) 学校保健安全法施行規則19条に規定する出席停止の期間の基準

感染症の種類	出席停止の期間の基準
第1種	第1種の感染症にかかった者については、治癒するまで。
第2種	第2種の感染症(結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。)にかかった者については、次の期間。ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
	イ インフルエンザ(特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
	ロ 百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	ハ 麻疹にあつては、解熱した後3日を経過するまで。
	ニ 流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
	ホ 風しんにあつては、発しんが消失するまで。
	ヘ 水痘にあつては、すべての発しんが痂皮化するまで。
	ト 咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後2日を経過するまで。
	チ 新型コロナウイルス感染症にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで。
	リ 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎にあつては、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。
第3種	第3種の感染症に罹患した者については、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。

(注3) 学生の親族が死亡した場合で、学生が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事のため授業を欠席する場合は、親族に応じ下表の日数欄に掲げる連続する日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数)の範囲内の期間

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母・曾祖父母	3日(学生が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
孫	1日
兄弟姉妹	3日

2. 履修手続

(1) 履修科目の登録

履修登録期間中に教務情報ポータルシステム「Campus Square」において、履修登録をしてください。履修登録期間後には、「履修登録修正期間」が設けられています。この期間中は、Campus Square で履修登録内容を修正することができます。登録内容に誤りがないか、必ず確認してください。

卒業論文など通年開講の授業科目については、前学期の履修登録期間に登録してください。後学期に再度登録する必要はありません。また、複数のクォーターにわたって開講される授業科目の履修登録に当たっては、授業が始まるクォーターの履修登録期間内に履修登録してください。

(例) 第2、第3クォーターにわたって開講される授業科目の履修登録

⇒ 第2クォーターの履修登録期間内に履修登録する

【履修登録期間及び修正期間】(集中科目については次の【集中科目の履修登録について】に記載)

履修登録期間は前学期、後学期にそれぞれ約2週間設けられています。また、第2クォーター開講科目及び第4クォーター開講科目については開講前に別途履修登録期間が約1週間設けられています。詳細は、掲示などで確認してください。

教務情報ポータルシステム「Campus Square」に履修登録されていない場合、成績は認められません。履修登録情報は、Campus Square の「履修時間割」の表示画面で確認してください。

【集中科目の履修登録について】

2年次以降に開講される専門科目の中には集中科目として開講される科目があります。集中科目については、科目によって履修登録期間が異なりますので、シラバスの履修上の注意やガイダンス、掲示板等で確認の上、指定された期間に必ず履修登録してください。

(2) 授業形態と実施方法

授業形態には、①対面授業、②オンライン授業(リアルタイム配信型)、③オンライン授業(オンデマンド型)、④ハイフレックス型(対面授業をリアルタイム配信し、特定の受講者に対してオンライン受講を併用する)授業があり、シラバス(履修する授業を選択するために用意された授業の内容を記したもの)に記載されています。遠隔授業受講上の注意など詳しいことは、『大学共通教育履修案内』を参照してください。

(3) 他学部の専門科目の履修について

他学部の専門科目を履修する場合は、各学期の「履修登録期間」中に、手続き(授業担当教員への許可など)が必要になりますので希望する場合、農学部学務グループに履修を希望する旨メール等で連絡してください。期間内に手続きが行われなかった場合や開設学科の都合によっては履修が認められない場合もありますので、履修したい科目が他学部のものではないか必ず確認し、時間に余裕をもって対応をしてください。

(4) 履修登録の追加登録期間後の削除について

Campus Square での履修登録期間及び修正期間終了後、履修を取り消したい科目がある場合は、「追加(削除)履修登録申請書」に必要事項を記入し、指定の期限までに学務グループまで申請手続を行ってください。期限を過ぎた場合の申請については、原則認められませんので、注意してください。

なお、集中講義の申請期限については、原則として講義最終日となりますが、講義最終日が土曜日、日曜日及び祝日の場合は、その直前の平日が申請期限となります。ただし、実験系の科目等一部の科目については、原則に依らず別途履修取消期日が設定される場合があります。シラバスの履修上の注意やガイダンス、掲示板等で事前に確認してください。また、基盤教育科目及び他学部専門科目では異なることがあるので、注意してください。

履修登録を取り消す場合、履修取消手続を行わない科目は成績評価の対象となります。履修取消期限経過後にやむを得ない事情(病気、事故等)により履修の登録を取り消したい場合は、学務グループに申し出てください。

(5) 履修上限単位 (CAP 制)

1単位当たりに必要な学修時間(45時間)を確保し、各年次にわたって適切に履修することで学修の質を向上させることを目的とし、履修上限単位(CAP 制)を設けています。1年間で履修登録できる上限単位数は46単位です。これには、単位互換協定を結ぶ他大学等における履修も履修上限単位数に含まれます。

ただし、卒業要件外科目・集中授業についてはこの限りではありません。

(6) 履修上限単位の緩和

前年の年間GPAが基準値(農学部の場合、3.50 以上)の場合、8単位を上限として、CAP 緩和の希望の申請ができます。申請期間は、後学期を対象とするものについては9月1日～9月10日、前学期を対象とするものについては3月1日～3月10日です。

年間GPAは、3月1日以降に Campus Square で確認できます。

※ 最終日が休日の場合には、直後の平日が期限となります

※ 1単位当たり 15 時間の授業及び 30 時間の授業外学修として開設している授業科目であれば、週当たり 2 科目まで上限を超えて履修することができます。

3. 履修上の注意

(1) 掲示

大学から学生への通知・連絡事項は、所定の掲示板上に掲示されます。掲示を見なかったため必要な手続きを怠り、不利益を被ることのないよう、大学に来た際は毎回必ず掲示を見るようにしてください(主な掲示内容: 休講、補講、集中授業、呼び出し、その他)。

なお、休講情報や大学からの連絡事項の一部は、**Campus Square** からも確認できます。

(2) メール

大学から学生一人ひとりに割り当てられたメールアドレスは、授業の連絡で使用される以外に、大学から履修や学生生活に関する通知・連絡事項がある際に随時使用されます。情報を見落とすことがないよう、普段からメールを確認する習慣をつけておいてください。

(3) シラバス

シラバスには授業科目名、担当教員、各回の授業内容、履修上の注意、成績の評価方法などが記されています。履修科目の選択に当たって、適宜、**Campus Square** 上にあるシラバスを参照してください。

(4) 休講

大学行事又は授業担当教員のやむを得ない事由によって授業が行えない場合には、休講とします。また、台風等の自然災害に対して、事故の発生を未然に防止するために、大学が休講措置を講ずることがあります。休講措置に関する情報は、大学ホームページ、**Campus Square** 及び掲示にてお知らせします。

(5) 補講

授業が休講となった場合は、別に日時を定めて補講を行います。日時、教室などは掲示等で連絡します。

(6) 集中科目

集中授業は、授業の種類(講義、演習、実験、実習、実技)によらず、随時、集中的に実施されます。必修の実験科目などが集中授業として開講されることもありますので、授業日程には注意してください。なお、集中授業の授業日程等は、その都度掲示でお知らせします。集中授業と通常授業の授業日程が重複する場合がありますが、この場合でも、通常授業の欠席について特段の配慮(通常授業を出席扱いとするなど)がなされるわけではありませので、授業日程に十分留意した上で履修してください。

(7) 呼び出し

担当する教職員より、メールや電話による連絡以外に、呼び出しの掲示がされることがあります。呼び出しがあった際は、速やかにその指示に従ってください。

(8) 遅刻と早退の取り扱い

各授業は全て出席することが前提です。併せて、途中入室(遅刻)及び途中退室(早退)をすると、欠席時数に含まれます。原則として、授業時間の3分の1以上の遅刻及び早退はその時間帯は「欠席」に、3分の1未満の遅刻及び早退は3分の1相当の欠席(3回行くと1回欠席と同等)となりますので、注意してください。

4. 試験およびレポート提出における注意

(1) 期末試験

期末試験は、原則として授業の最終回に行います。期末試験を受験するためには、履修科目の授業総時間の3分の2以上の出席時数が必要です。なお、期末試験の時間割は1週間前までに掲示されます。

出席時数に関する取り扱いについては各授業担当者に確認してください。

(2) 追試験

期末試験の受験資格を有する者が、次に掲げる事情により期末試験を受けることができなかった場合は、当該科目の期末試験の翌日から1週間以内に、学務グループ(1年生は別途案内いたします)に願い出て、事情を証明する書類を提出することで追試験を受けることができます。

- ① 学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)第18条に規定する感染症に罹患した場合(注1、注2参照)
- ② 忌引き(注3参照)
- ③ 裁判員制度
- ④ 公共交通機関の運行停止・遅延
- ⑤ その他やむを得ない事情があると判断したもの。

(注1) 学校保健安全法施行規則18条に規定する感染症

第1種感染症:

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。))及び特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症

第2種感染症:

インフルエンザ(特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く。)、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

第3種感染症:

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

(注2) 学校保健安全法施行規則19条に規定する出席停止の期間の基準

感染症の種類	出席停止の期間の基準
第1種	第1種の感染症にかかった者については、治癒するまで。
第2種	第2種の感染症(結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。))にかかった者については、次の期間。ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
	イ インフルエンザ(特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。))にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
	ロ 百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	ハ 麻しんにあつては、解熱した後3日を経過するまで。
	ニ 流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経

	過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
	ホ 風しんにあっては、発しんが消失するまで。
	ヘ 水痘にあっては、すべての発しんが痂皮化するまで。
	ト 咽頭結膜熱にあっては、主要症状が消退した後2日を経過するまで。
	チ 新型コロナウイルス感染症にあっては、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで。
	リ 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎にあっては、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。
第3種	第3種の感染症に罹患した者については、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。

(注3) 学生の親族が死亡した場合で、学生が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事のため授業を欠席する場合は、親族に応じ下表の日数欄に掲げる連続する日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数)の範囲内の期間

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母・曾祖父母	3日(学生が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
孫	1日
兄弟姉妹	3日

※⑤「その他」として追試験の対象として判断される場合があります。対象となるかどうかについては事情を確認できる書類により判断するので所属学部等の学務グループに提出してください。なお、例えば大学院入学試験など事前に連絡することが可能な事情については、原則としてその事情が判明した段階で学務グループに事前の連絡をしていなければなりません。

追試験の実施期日は、当該科目の期末試験の翌日から3週間以内を原則とします。(特別な事情がある場合は、当該学期以内とします。ただし、これによりがたい場合には当該学期以降に実施する場合があります。)

(3) 試験等受験者心得

試験等の受験に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。
- ② 試験開始後30分までは退室を認めない。
- ③ 受験に当たっては学生証を机の右上に置くこと。学生証を所持しない学生は、受験を認めない。
- ④ 机の上に置けるものは、学生証の他、筆記具(筆箱は含まない)、消しゴム、時計(時計機能のみ)とし、その他は、試験監督者の指示に従いかばん等に見えないように収納すること。ただし、試験監督者が認めたものは置いてよい。
- ⑤ ハンカチ、ティッシュペーパー、目薬等の使用を希望する学生は、試験監督者に申し出て許可を受けてから使用すること。
- ⑥ 試験室内では、携帯電話等の電子機器類の電源は切り、かばん等に見えないように収納すること。
- ⑦ 以下は不正行為に該当するので、疑わしい行為はしないこと。
 - ア. 身代わり受験をさせること。
 - イ. カンニングペーパーを使用すること又は試験監督者から指示のない書籍、機器等による情報等を参照し解答すること。
 - ウ. 他者の答案を見ること又は解答を尋ねること。
 - エ. 試験監督者の注意又は指示に従わないこと。

- オ. 前アからエに掲げる行為を幫助すること。
- カ. その他公正な試験を妨げると認められる行為。

⑧ 授業中における小テスト等についても、試験監督者からの指示以外は上記を準用する。

⑨ 上記によりがたい場合は、試験監督者の指示を仰ぐこと。

(4) レポート等の作成における留意事項

成績評価の対象となるレポート等の作成において、以下の行為を行った場合は不正行為に該当するので留意すること。

- ア. 作成において、捏造(存在しないデータを使って、調査・研究結果等を作成すること)、改ざん(データ、調査・研究によって得られた結果等を事実でないものに変更すること)、盗用(インターネット上に掲載されている情報のコピー＆ペーストなど、他人のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文、著書等の内容を流用し、適切な表示をしないこと)を行うこと。
- イ. 他者のレポートを自分のものとして提出すること。
- ウ. 前ア及びイに掲げる行為を幫助すること。
- エ. その他公正な成績評価を妨げると認められる行為。

(5) 不正行為による処罰

試験等において不正行為をした学生及びこれを幫助した学生は、学則に基づき懲戒処分となり、当該学期に履修するすべての授業科目の単位(他の大学又は大学以外の教育施設等による学修を含む)が認定されません。また、認定されなかった授業科目の GP は「0」として学期 GPA、年間 GPA 及び通算 GPA に算入されます。併せて、「停学」等の懲戒が課され、修業年限内で卒業することが難しくなります。

5. 成 績

(1) 成績の評価

- ① 成績の評価は原則として、A+、A、B、C、Dの5段階です。A+からCを合格とし、所定の単位が与えられます。Dは不合格とし、単位が与えられません。また、成績の評価方法は授業科目ごとに異なるので、シラバスで確認してください。

区分	評点基準	評価の内容
A+	90 ～ 100	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80 ～ 89	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70 ～ 79	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60 ～ 69	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60 点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

※単位認定による評価の場合、上記以外にNの評価がある。点数に基づかない合格を表す評価となる。

- ② 成績には、A+、A、B、C、Dの評価の他、「欠試」があります。欠試の成績評価は、総授業時間数の3分の2以上の出席時数を満たしながら、試験を受験しなかった又はレポートを提出しなかった場合に記録されます。欠試及びD評価の科目は「成績通知表」には掲載されますが、「成績証明書」には単位を修得した授業科目名、単位数及びA+、A、B、Cの評価のみが掲載されます。
- ③ 「D」又は「欠試」となった授業科目は、次年度以降に再び履修することができます。
- ④ 専門科目では同じ授業科目を2回以上履修しても、すでに単位を修得している場合は、新しい単位として認められません。ただし、単位の累加が認められているものは、この限りではありません。単位の累加が認められる授業科目については、各カリキュラムの課程表を参照してください。
- ⑤ 一つの授業科目について、所定の単位数の一部のみを与えることはできません。
- ⑥ 一度修得した単位及び評価は取り消すことができません。

（２）成績報告期限および成績確認可能日

農学部の専任教員が担当する授業科目については、原則として次のとおり取り扱います。正式な期限は、必ず当該年度の授業カレンダー及び掲示にて確認してください。また、成績は教務情報ポータルシステム「Campus Square」で確認可能です。

【授業担当教員の成績報告期限】

[前学期]9月卒業予定者受講の授業科目： 8月の第3又は第4週のいずれかの日

上記以外の授業科目： 8月末日

[後学期]最上位学年： 2月第3又は第4週のいずれかの日

最上位以外の学年： 2月末日

※当該日が土日祝日の場合は、翌日に繰り越します。

【成績確認可能日】

掲示等によりお知らせします。

（３）GPA制度

GPA(Grade Point Average)とは、個々の学生の学修時間当たりの学習到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目の GP(Grade Point)に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値(Average)をいいます。

当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としての「学期 GPA」と、当該年度における学修の状況及び成果を示す指標としての「年間 GPA」、在学中の全期間における指標としての「通算 GPA」の三つがあります。不合格科目を再履修して合格となった場合、「通算 GPA」は再履修した科目の成績に置き換えて再計算されます。

【本学における GPA の算出方法】

$GP = (100 \text{ 点満点の得点} - 55) / 10$ ただし、GP=0.5 未満は 0.0 とする。

※授業科目の得点が 90 点のとき、当該科目の GP は「3.5」になります。

※授業科目の得点が 59 点のとき、当該科目の GP は「0.0」になります。

$GPA = (\text{履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修科目の総単位数}$
(GPA は小数点第 3 位を四捨五入し、第 2 位までを表示)

※卒業要件外(教職科目含む)の科目は GPA に算入されません。

※履修取消期日までに履修登録を取り消した科目は GPA に算入されません。

【GPA の通知及び記載】

学期 GPA、年間 GPA 及び通算 GPA は、教務情報ポータルシステム「Campus Square」の画面及び成績表に記載されます。また、成績証明書には、通算 GPA のみが記載されます。

（４）成績証明書の発行

前学期の成績は9月中旬、後学期の成績は3月中旬に成績証明書に反映される予定です。成績証明書を発行する場合には、証明書自動発行機を利用してください。証明書自動発行機の稼働時間は、平日の午前8時30分から午後6時です。メンテナンス等により、証明書が発行できない場合がありますので、必要な場合は早めに発行するように心掛けてください。成績証明書は、授業料免除申請や各種奨学金の出願時、また就職活動において企業等から提出書類として求められる場合があります。

(5) 成績評価に関する異議申立制度

1) 成績評価に関する問合せ

成績評価について疑義のある場合は、学務グループを通じて授業担当教員に問い合わせることとなります。学生からの問合せに対して、授業担当教員は原則として 10 日以内(土日、祝日を除く。)に説明することとしています。

上記の問合せの期限は、当該授業科目が開講された学期の次の学期開始後 20 日以内(土日、祝日を除く。)です。休学又は留学のため問合せを行うことができない場合は、復学又は帰国後 20 日以内(土日、祝日を除く。)が問合せの期限となります。

ただし、最終年次の問合せ期限については、成績確認可能日から 3 日以内です。当該授業が開講された学期中に成績報告がされていない授業の問合せ期限等については、別途掲示等でお知らせします。

2) 成績評価に対する異議申立て

上記1)の成績評価に関する問合せをした学生は、次の①～③のいずれかに該当する場合に限り、成績評価に対する異議を申し立てることができます。

- ①授業担当教員の成績評価の誤記入等が疑われる場合
- ②シラバスに記載された到達目標、成績評価基準及び成績の評価方法に照らし、評価に疑義がある場合
- ③授業担当教員の不誠実対応等により上記1)の期限までに回答がない場合

成績評価に対する異議申立てをする学生は、学務グループに申し出てください。

成績評価に対する異議申立ての期限は、上記1)の問合せに対する授業担当教員からの説明又は回答を受けた日から 10 日以内(土日、祝日を除く。)です。ただし、③の場合には、上記1)の問合せをしてから 15 日以内(土日、祝日を除く。)が申立ての期限となります。

成績評価に対する異議申立てがなされた場合、農学部教務委員会において学生及び授業担当教員の双方から事情及び意見等を聴取するとともに、根拠資料の提出を求めます。その上で、どちらの主張に妥当性があるかを判断します。

6. 在学年限・修業年限

(1) 在学年限

学生の在学年限は、8 年です。この期間を超えて在学することはできません。停学期間は在学年限に算入されますが、休学期間は在学年限に算入されません。なお、編入学者の在学年限は、4 年となります。

(2) 修業年限

学生の修業年限は、早期卒業を除き、通常 4 年です。休学期間は修業年限に算入されません。なお、編入学者の修業年限は、2 年です。

(3) 9 月卒業

早期卒業の要件を満たした場合、又は修業年限内に単位未修得のため卒業できなかった者が、次年度の前学期に卒業要件を満たした場合は 9 月卒業者となります。卒業要件を満たした場合は、卒業者として扱われるので注意してください。

7. 学籍の異動

(1) 休学

疾病その他の理由により、2か月以上修学することができない場合は、学長の許可を得て休学することができます(休学が認められる期間は2か月以上1年以内の期間で学期単位)。

なお、特別な理由により、1年を限度として休学期間を延長することができます。通算して4年を超えることはできません。休学期間は、修業年限及び在学年数に算入されません。このことは、例えば半年間休学をした場合には、その分、卒業時期が延びることを意味するので十分注意してください。

【休学手続】

学務グループで休学理由等を申し出た上で「休学願」を受け取り、保証人及び学生担任との相談を経て、書類を作成し、学務グループへ提出してください(病気の場合は医師の診断書が必要)。

「休学願」の提出期限等は次のとおりです。

(例) (休学する期間)	(提出期限)	(授業料の取扱い)
4月1日～翌年3月31日	原則として2月末日	前・後学期分免除
9月21日～翌年3月31日	原則として8月末日	後学期分免除

【休学の延長】

特別な理由により、引き続き休学を希望する場合は、改めて休学の手続きを行うことになります。

(2) 復学

休学期間の満了に伴い復学する時は、休学期間の満了前に「復学届」を提出して復学することができます。休学期間中に休学事由が解消したことで復学する時は、「復学願」を提出して学長の許可を得て復学することができます。

【復学手続】

学務グループで「復学届(願)」を受け取り、学生担任等との相談を経て学務グループへ提出してください(病気の回復による復学の場合は医師の診断書が必要)。「復学届(願)」の提出期限は、原則として復学する1か月前までとしますので、注意してください。また、復学後は、所定の期日までに所定の授業料を納入してください。

(3) 退学

疾病その他やむを得ない事情により退学しようとする場合は、学長の許可を得て退学することができます。

【退学手続】

学務グループで退学理由等を申し出た上で「退学願」を受け取り、保証人及び学生担任との相談を経て、書類を作成し、学務グループへ提出してください。

(4) 除籍

次の事項に該当する学生は、学長が除籍します。

所定の在学期間を超えた者

疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められた者

授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

学則第16条第4項に規定する入学料を納入しない者

死亡又は行方不明の者

8. 早期卒業制度

早期卒業制度は、一定の条件を満たす学生が3年半で卒業できる制度です。早期に大学を卒業して大学院に進学し資質を向上させること、海外の大学院に留学し高い専門教育を受けるとともに国際感覚を養うことなどを目的としています。

【対象者】

在学中の者で学業成績が特に優秀な者とする(「地域総合農学科応用植物科学コース」を除く)。

【申請手続】

早期卒業を希望する場合は、2年次の後学期末に「早期卒業登録申請書」を学務グループに提出すること

【申請要件】

早期卒業の対象となる者は、以下の要件を満たさなければなりません。

〔2年次後学期終了時〕

- ① 卒業に必要な修得単位数の合計が90単位以上であること。
- ② 通算のGPAが3.50以上であること。
- ③ 履修した必修科目の成績評価が「C」以上であること。

〔3年次後学期終了時〕

- ① 卒業に必要な単位をすべて修得していること(「卒業論文」、「ゼミナール」を除く)。
- ② 通算のGPAが3.50以上であること。

【卒業認定】

早期卒業の認定を受けるためには、以下の要件をすべて満たさなければなりません。

- ① 学科の卒業要件を満たしていること。
- ② 通算のGPAが3.50以上であること。
- ③ 卒業論文の成績評価が「A+」であること。

9. 農学部カリキュラム

(1) カリキュラムの概要

農学部学生は、入学後1年間は水戸キャンパスで基盤教育科目を主として履修し、2年次から阿見キャンパスで専門科目を主に履修することになります。

(2) 転学科

所属学科から別学科へ転学科を希望する場合は、2年次10月の定められた期間において、学務グループに申請をしてください。11月に希望学科で選考を行い、12月に希望学科での受け入れの可否について結果を通知します。なお、転学科の出願資格や出願手続等の詳細については、掲示または教務委員に問い合わせて確認するようにしてください。

(3) 卒業要件

農学部の卒業資格を得るためには、次の表にかかげる単位数を修得しなければなりません。これらの単位を修得し、卒業要件を満たした者には学士（農学）の学位が授与されます。

卒業に必要な最低修得単位数

学科	コース		基盤教育 科目	農学部 専門科目				自由履修 科目	最低修得 単位数
				必修	選択必修	選択	小計		
食生命科学科	-	-	24	52	25	0	86	0	124
地域総合農学科	応用植物科学コース			55	18	0	86		
	地域共生コース			50	18	6	90		
	特別カリキュラム(測量士補)			76	4	6			

※ 基盤教育科目の最低修得単位数と各コース・系の専門科目小計(最低修得単位数)を合計しても、卒業要件の124単位には満たない。
その差分は基盤教育科目、農学部専門科目、自由履修科目の単位を修得する。

①基盤教育科目

基盤教育科目の履修の詳細は、大学共通教育科目履修案内を参照してください。基盤教育科目と専門科目では、履修方法や科目構成で異なる点もあります。なお、基盤教育科目の農学部の履修モデルについては、表2を参考にしてください。

②農学部専門科目

各学科・コースには、必修科目、選択必修科目、選択科目が指定されており、各々の卒業要件に定められた単位数を修得することが必要です。所属する学科やコースによって、必要単位数が異なりますので、所属するカリキュラムの課程表で必ず確認してください。

③自由履修科目

所属するカリキュラムの課程表に記載されていない農学部専門科目や他学部の専門科目、基盤教育科目、全学共通科目で必要単位数を超えて修得した単位は、「自由履修科目」として認定されます。また、所属するカリキュラムにおいて必要単位数を超えて修得した単位も「自由履修科目」として同様に認定されます。

ただし、教育職員免許状取得に必要な科目の一部（教職概論A、中等理科教育法Iなど）及び一部の専門科目は、卒業要件外科目となり、自由履修科目にはなりません。

表 1 卒業要件として算入される農学部専門科目の種類（単位区分）

必修科目	卒業要件として必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された科目の中から選択して履修し、必要単位数を修得しなければならない科目
選択科目	所定の科目の中から選択して履修する科目

※ 学科・コースにより、科目の単位区分は異なる。単位区分は所属するカリキュラムの課程表を参照。

表 2 基盤教育科目の標準履修モデル

区 分		卒業必要 単位数	1 年 次		2 年 次		3 年 次		備 考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	大学入門ゼミ	2	2						
	茨城学	1		1					
基盤学修 (共通基礎／キャリア形成)	プラクティカル・イングリッシュ	4	1	1	1	1			
	情報リテラシー	2	2						
	データサイエンス・AI 入門	2		2					
	心と体の健康	1	1						・心と体の健康(実技)は、前期または後期に履修する。
	科学と倫理	1	1						
	ライフデザイン	1					1		
主体学修(リベラル アーツ)	多文化コミュニケーション(初修外国語)	3		1					・初修外国語 ・共生とコミュニケーション ・パフォーマンス&アート からいずれか1単位選択
	多文化コミュニケーション(共生とコミュニケーション、パフォーマンス & アート)								
	ヒューマニティーズ		2						
	自然・環境と人間	4	2						
	グローバル化と人間社会			2					
選択履修		3	3						1～4年次に任意の基盤教育科目を履修
計		24							・卒業必要単位数を超えて修得した基盤教育科目の単位は、自由履修科目として卒業単位に算入される。

10. 入学前の既修得単位認定について

本学入学前に他の大学・短期大学等において修得した単位がある場合は、本学における基盤教育科目又は専門科目の単位の認定を受けることができます。詳細は大学共通教育科目履修案内を参照してください。なお、教育職員免許状など諸資格に関する科目の認定については、本学入学前に在学した大学・短期大学等の状況により判断するので、必ず事前に学務グループに相談してください。

11. 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

次の表に該当する場合、単位認定の申請をすることができます。審査の結果、その単位等の修得に際しての学修が、茨城大学で開講する授業で単位を修得するための学修と同等の内容と認められれば、茨城大学の授業を受講したものとして単位が認められ、60 単位を上限として卒業に必要な単位に算入することができます。

単位互換協定を結ぶ他大学等における修得単位・学修※	① 放送大学（基盤教育科目のみ） ② 福島大学・宇都宮大学（1 年次生の前学期は履修不可） ③ 茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校 ④ 茨城県立医療大学 ⑤ 茨城キリスト教大学 ⑥ 常磐大学・常磐短期大学 ⑦ 海外の大学における学修 ⑧ その他
大学以外の教育施設等における学修	⑨ 実用英語技能検定試験 ⑩ ケンブリッジ大学英語検定試験 ⑪ TOEFL ⑫ TOEIC ⑬ ドイツ語技能検定試験 ⑭ 実用フランス語技能検定試験 ⑮ 中国語検定試験 ⑯ スペイン語技能検定試験
入学前に修得した他大学等の単位	単位を修得した大学等の成績証明書・履修案内・シラバス等を参照し、審査する。詳細は大学共通教育科目履修案内を参照。

※休学期間中に他大学で修得した単位についても、本学における授業科目の履修とみなして単位を与えられる場合があります。事前に認定可否の確認を行いますので、他大学での単位修得を検討している場合には、休学期間開始の 2 か月前までに学務グループまで問い合わせてください。

①～⑥ 単位互換協定を結ぶ他大学における修得単位・学修

①放送大学（授業料は徴収しますが、入学料は徴収しません）、②福島大学・宇都宮大学、③茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校、④茨城県立医療大学、⑤茨城キリスト教大学、⑥常磐大学・常磐短期大学との単位互換協定に基づき、各大学の科目（ただし、聴講可能な科目は限られます）を特別聴講学生として受講し、単位を修得した者は、本学の単位として認定を受けることができます。

申請時期・聴講可能科目・対象年次等は、各大学によって異なります。詳細は、学務グループに問い合わせてください。

⑦ 海外の大学における学修

本学は海外の大学と学術・学生交流協定を締結しています。その協定によって、1 年以内の期間でそれらの大学へ留学すること（「派遣留学」と言います）が可能です。協定校への留学に際しては、「派遣先大学の授業料等が免除される」、「修得した単位を本学の単位として認定を受ける」こともできます（一部の大学・授業科目を除きます）。ただし、渡航費や滞在費などは自己負担となります。

また、独立行政法人日本学生支援機構「留学交流支援制度（短期派遣）」により、毎年若干名が奨学金を受給して留学することも可能です。

派遣留学及び「留学交流支援制度（短期派遣）」奨学生については、例年、派遣開始の前年度11月頃に募集を行います。詳細は、グローバル教育センター又は農学部学務グループにお問い合わせください。学術・学生交流協定を締結している海外の大学については、茨城大学ホームページをご覧ください。

海外の大学へ留学した者で、単位の認定を希望する者は、帰国後、留学先の大学が発行した成績証明書及び大学のカリキュラム・授業内容が分かる資料（履修案内やシラバスなど）を添えて、農学部学務グループに申し出てください。

⑧ その他

①～⑦に該当しない国内他大学等の科目を履修希望の場合は、事前に学務グループに申し出てください。

⑨～⑯ 大学以外の教育施設等における学修

本学における基盤教育科目の外国語科目の単位として認定を受けることができます。詳細は大学共通教育科目履修案内を参照してください。

12. 農学部において取得できる資格等

学 科	取得できる資格等
食生命科学科	食品衛生管理者及び食品衛生監視員 所定の科目を修得して卒業した者に与えられる任用資格です。ただし、編入学生については食品衛生管理者・食品衛生監視員登録養成施設として認められている大学等から編入学した学生に限られます。 ※ 任用資格とは、特定の職業ないし職位に任用されるための資格のことです。該当任用資格を取得後、当該職務に任用・任命されて初めて効力を発揮します。 ※ 取得希望者は、P. 48 を参照すること。
地域総合農学科	測量士補 地域共生コース（測量士補特別カリキュラム）を修めて卒業した者。卒業後実務経験1年以上で測量士の資格を取得できます。
全学科	高等学校教諭一種免許状（理科・農業） 所定の科目（教育実習を含む）を修得して卒業した者が取得できます。 大型特殊自動車免許（農耕用に限ります） 国際フィールド農学センターで開講する実習の一環として行われる実地検定に合格した者が取得できます。 日本農業技術検定2級（技能試験） 日本農業技術検定は、（一社）全国農業会議所が実施している、農業についての知識・技術の取得を評価する試験です。国際フィールド農学センターでは、2級の団体受験を実施しています。また、「農学実習」の履修によって、2級の技能試験が免除されます。申し込みは10月末までとし、12月上旬に団体受験を行います。

II 專門科目課程表

1. 食生命科学科

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。
また、食生命科学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。
・3年次終了時における総修得単位数が100単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。

必修科目 (52単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	宮口右二、他	2	2								講義		
AN1110	基礎生化学	長南茂	2	2								講義	理科	
AN1118	食生命科学入門	関係教員	3	3								講義		
AN1119	一般化学	鎗田孝	2	2								講義	理科	
AN1116	分子細胞生物学	豊田淳、朝山宗彦	2	2								講義	理科	
AN1120	代謝生化学	小島俊雄	2	2								講義	農業	
AN2106	基礎微生物学	西澤智康	2		2							講義	農業	
AN2155	食品化学	長南茂	2		2							講義	農業	
AN2112	統計学入門	庄山紀久子	2		2							講義		
AN2107	基礎有機化学	戸嶋浩明	2		2							講義	理科	
AN2163	動物生理学	吉田悠太	2		2							講義	理科	
AN2180	食生命化学実験	未定	1		1							実験	理科	
AN2109	動物形態学	上塚浩司	2		2							講義	理科	
AN2105	基礎土壌学	西澤智康、坂上伸生	2		2							講義	農業	
AN2190	基礎食品分析化学	鎗田孝	2		2							講義	理科	
AN2181	英語コミュニケーション	★未定	2			2						講義	英語開講	
AN2182	植物生理学	中平洋一	2			2						講義	理科	
AN2161	動物栄養学	大久保武、豊田淳	2			2						講義	農業	
AN2158	畜産物科学	宮口右二	2			2						講義	農業	
AN3189	生物有機化学	長谷川守文	2				2					講義	理科	
AN3190	食品衛生学	鈴木穂高	2				2					講義	農業	
AN3161	食生命科学演習	関係教員	1					1				演習		
AN4001	ゼミナール	関係教員	1							1		演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

選択必修科目① (8単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1121	基礎化学	長谷川守文、他	2	2								講義	理科	
AN1115	生物学	安江健、他	2	2								講義	理科	
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2								講義	理科	
AN1203	経済学	内田晋	2	2								講義		
AN1108	経営学概論	●田原静	2	2								講義		
AN1117	陸域環境科学	坂上伸生	2	2								講義	理科	
AN1213	力学入門	山崎大	2	2								講義	理科	
AN2117	物理学入門	★未定	2			2						講義	理科	
AN2267	プログラミング基礎	小松崎将一	2				2					講義		
-	農学実習	七ヶ小百合、他	1			1						実習		指定クラス

選択必修科目② (12単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2165	微生物生態学	成澤才彦	2			2						講義	理科	
AN2162	動物生殖学	大久保武	2				2					講義	農業	
AN2160	動物行動学	安江健	2				2					講義	農業	
AN2152	酵素化学	上妻由章	2				2					講義	理科	
AN2192	毒性学	鈴木穂高	2				2					講義		英語開講
AN3110	動物育種学	大久保武	2					2				講義	農業	
AN3113	動物飼料学	豊田淳、宮口右二	2					2				講義	農業	
AN3111	動物管理学	小針大助	2					2				講義	農業	
AN3108	地圏生態化学	西澤智康	2					2				講義	理科	
AN3101	遺伝子制御学	朝山宗彦	2					2				講義	農業	
AN3151	応用微生物学	西原宏史	2					2				講義	農業	
AN3114	植物環境応答学	小島俊雄	2					2				講義	理科	
AN3116	植物分子遺伝学	中平洋一	2					2				講義	理科	
AN3191	食品製造学	中村彰宏	2					2				講義	農業	
AN3117	食品機能学	上妻由章	2					2				講義	農業	
AN3173	食品保蔵学	中村彰宏	2					2				講義	農業	英語開講
AN3154	動物保健衛生学	上塚浩司	2						2			講義	農業	

選択必修科目③（3単位以上）

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2184	機器分析実験	長谷川守文、鎗田孝、鈴木義人	1				1					実験	理科	
AN2185	微生物学実験	西澤智康、成澤才彦	1				1					実験	理科	
AN2177	動物解剖学・生化学実験	豊田淳、吉田悠太、大久保武	1				1					実験	農業	
AN2169	食品加工実習	宮口右二、中村彰宏	1				1					実習	農業	
AN2193	植物生理学実験	中平洋一、小島俊雄	1				1					実験	理科	
AN2191	食品化学実験	長南茂、上妻由章	1					1				実験	農業	
AN3188	食品衛生学実験	鈴木穂高、上塚浩司	1					1				実験		
AN3126	牧場実習	小針大助、安江健	1					1				実習	農業	

選択必修科目④（2単位以上）

10単位を超えて修得した食生命科学海外講義の単位数は自由履修科目として認定する（専門科目86単位には含めない）。

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2186	地域サステナビリティ学概論	未定（坂上伸生）	1				1					講義		英語開講
AN2187	環境共生論	未定（成澤才彦）	1				1					講義		英語開講
AN2188	地域サステナビリティ学特別講義Ⅰ	未定（★Grace、★Fia）	1				1					講義		英語開講
AN2189	地域サステナビリティ学特別講義Ⅱ	未定（豊田淳、他）	1				1					講義		英語開講
AN3175	ビジネス英語	★未定	2					2				講義		英語開講
AN3177	食生命科学海外講義Ⅰ	学科長	2						2			講義		交流協定校
AN3178	食生命科学海外講義Ⅱ	学科長	2						2			講義		交流協定校
AN3179	食生命科学海外講義Ⅲ	学科長	2						2			講義		交流協定校
AN3180	食生命科学海外講義Ⅳ	学科長	2						2			講義		交流協定校
AN3181	食生命科学海外講義Ⅴ	学科長	2						2			講義		交流協定校
AN3182	食生命科学海外講義Ⅵ	学科長	3						3			講義		交流協定校
AN3183	食生命科学海外講義Ⅶ	学科長	3						3			講義		交流協定校
AN3184	食生命科学海外講義Ⅷ	学科長	3						3			講義		交流協定校
AN3185	食生命科学海外講義Ⅸ	学科長	3						3			講義		交流協定校
AN3186	食生命科学海外講義Ⅹ	学科長	1						1			講義		交流協定校
AN3187	食生命科学海外講義Ⅺ	学科長	1						1			講義		交流協定校

選択科目

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1215	フードシステム学	池田真也	2		2							講義	農業	
AN2002	海外農村・農業体験実習	佐藤達雄、他	2				2					実習		
-	生物学実験	菊田真吾、他	1				1					実験	理科	
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2				2					講義	農業	
AN3129	キャリア開発論	●石井純一	2					2				講義	農業	
AN3206	生態学	北嶋康樹	2					2				講義	理科	
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1					1				実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2					2				実習		

2. 地域総合農学科 応用植物科学コース

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。

また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。
 - ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。
- なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

必修科目 (55単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN1003	農学入門	宮口右二、他	2	2				講義		
AN1207	農業経済学一般	内田晋、伊丹一浩、西川邦夫	2	2				講義	農業	
AN1208	地域総合農学入門	北嶋康樹、他	2	2				講義	農業	
AN1211	栽培学	★浅木直美、他	2	2				講義	農業	
AN2212	遺伝学	久保山勉	2		2			講義	理科	
AN2205	統計学	庄山紀久子	2		2			講義		
AN2206	土壌肥料学	七夕小百合	2		2			講義	農業	
AN2208	農業と水と土	牧山正男、前田滋哉、林暁嵐	2		2			講義	農業	
AN2209	微生物学	中島雅己	2		2			講義	理科	
-	生物学実験	菊田真吾、他	1		1			実験	理科	
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1			実習		指定クラス
AN2284	作物学実験	迫田翠	1		1			実験	農業	
AN2251	園芸学Ⅰ	井上栄一	2		2			講義	農業	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2		2			講義	理科	
AN2255	作物学	迫田翠	2		2			講義	農業	
AN2257	植物生理学	望月佑哉、他	2		2			講義	理科	
AN2258	植物病理学	中島雅己	2		2			講義	農業	
AN2275	植物育種学実験	久保山勉	1		1			実験		
AN3203	植物育種学	久保山勉	2			2		講義	農業	
AN3205	青果物利用学	望月佑哉	2			2		講義		
AN3206	生態学	北嶋康樹	2			2		講義	理科	
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2			2		講義	農業	
AN3218	農薬学	菊田真吾	2			2		講義		
AN3227	園芸学実験	井上栄一、望月佑哉	1			1		実験	農業	
AN3228	応用動物昆虫学実験	北嶋康樹、菊田真吾	1			1		実験	理科	
AN3231	植物病理学実験	中島雅己、古谷綾子	1			1		実験	農業	
AN3235	農場実習	七夕小百合、佐藤達雄	1			1		実習	農業	
AN4001	ゼミナール	関係教員	1				1	演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8				8	実験		

選択必修科目① (8単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN1121	基礎化学	長谷川守文、他	2	2				講義	理科	
AN1115	生物学	安江健、他	2	2				講義	理科	
AN1203	経済学	内田晋	2	2				講義		
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2				講義	理科	
AN1213	力学入門	山崎大	2	2				講義	理科	
AN2112	統計学入門	庄山紀久子	2		2			講義		
AN2117	物理学入門	★未定	2		2			講義	理科	

選択必修科目② (4単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN2283	国際農業論	未定	2		2			講義	農業	
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2		2			講義	農業	
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2		2			講義	農業	
AN2282	農村計画学	牧山正男	2		2			講義		
AN2267	プログラミング基礎	小松崎将一	2		2			講義		

選択必修科目③ (6単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN3252	園芸学Ⅱ	井上栄一	2			2		講義	農業	
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2			2		講義		
AN3254	工芸・飼料作物学	★浅木直美	2			2		講義	農業	
AN3257	青果物生産学	望月佑哉	2			2		講義		

選択科目

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1216	線形代数学	木下嗣基	2	2								講義		
AN1215	フードシステム学	池田真也	2		2							講義	農業	
AN2280	農村インフラ整備学	前田滋哉	2			2						講義	農業	
AN2210	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
AN2002	海外農村・農業体験実習	佐藤達雄、他	2			2						実習		
AN2287	応用力学Ⅰ	坂口敦	1			1						講義		
AN2288	応用力学Ⅱ	坂口敦	1			1						講義		
AN2259	水文学	前田滋哉	2			2						講義	農業	
AN2265	農産物流通論	★宮部和幸	2			2						講義		
AN2285	力学Ⅰ	木下嗣基	1			1						講義	理科	
AN2286	力学Ⅱ	木下嗣基	1			1						講義	理科	
AN2278	農作業学	小松崎将一	2			2						講義	農業	
AN2271	水理学	前田滋哉	1			1						講義	農業	
AN2272	流体力学	前田滋哉	1			1						講義	理科	
AN2273	生物生産機械学実験	岡山毅	1			1						実験	農業	
AN2186	地域サステナビリティ学概論	未定（坂上伸生）	1			1						講義		英語開講
AN2187	環境共生論	未定（成澤才彦）	1			1						講義		英語開講
AN2188	地域サステナビリティ学特別講義Ⅰ	未定（★Grace、★Fia）	1			1						講義		英語開講
AN2189	地域サステナビリティ学特別講義Ⅱ	未定（豊田淳、他）	1			1						講義		英語開講
AN3201	環境経済学	内田晋	2					2				講義		
AN3208	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2					2				講義		
AN3274	地球情報学	木下嗣基	1					1				講義	理科	
AN3275	地理情報学	木下嗣基	1					1				講義	農業	
AN3212	農業経済学	内田晋	2					2				講義	農業	
AN3214	農業水利学	林暁嵐	2					2				講義	農業	
AN3217	農政学	西川邦夫	2					2				講義	農業	
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2					2				講義		
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一	2					2				実習		
AN3222	多孔体物性学	坂口敦	1					1				講義	理科	
AN3223	土壌物理学	坂口敦	1					1				講義	農業	
AN3226	流体力学演習	林暁嵐	1					1				演習	理科	
AN3221	粒状体力学	坂口敦、臼井靖浩	1						1			講義	理科	
AN3272	農地環境工学Ⅰ	牧山正男	1						1			講義	農業	
AN3273	農地環境工学Ⅱ	牧山正男	1						1			講義	農業	
AN3260	農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義	農業	
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1						1			演習		
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1						1			実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2						2			実習		

3. 地域総合農学科 地域共生コース

- 以下の専門科目から90単位以上を修得することが卒業の条件です。
 また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。
 ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。
 ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。
 なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

必修科目 (50単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN1003	農学入門	宮口右二、他	2	2				講義		
AN1216	線形代数	木下嗣基	2	2				講義		
AN1115	生物学	安江健、他	2	2				講義	理科	
AN1203	経済学	内田晋	2	2				講義		
AN1207	農業経済学一般	内田晋、伊丹一浩、西川邦夫	2	2				講義	農業	
AN1208	地域総合農学入門	北嶋康樹、他	2	2				講義	農業	
AN1211	栽培学	★浅木直美、他	2	2				講義	農業	
AN1215	フードシステム学	池田真也	2	2				講義	農業	
AN2205	統計学	庄山紀久子	2		2			講義		
AN2210	微積分学	前田滋哉	2		2			講義		
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2		2			講義	農業	
AN2208	農業と水と土	牧山正男、前田滋哉、林暁嵐	2		2			講義	農業	
AN2283	国際農業論	未定	2		2			講義	農業	
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1			実習		指定クラス
AN2259	水文学	前田滋哉	2		2			講義	農業	
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2		2			講義	農業	
AN2282	農村計画学	牧山正男	2		2			講義		
AN2278	農作業学	小松崎将一	2		2			講義	農業	
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2			2		講義		
AN3201	環境経済学	内田晋	2			2		講義		
AN3212	農業経済学	内田晋	2			2		講義	農業	
AN4001	ゼミナール	関係教員	1				1	演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8				8	実験		

選択必修科目① (14単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN2289	測地学	牧山正男	1					講義	理科	隔年開講
AN2290	測量学	牧山正男	1		1	1		講義	農業	隔年開講
AN2274	測量実習	牧山正男	2		2	2		実習		隔年開講
AN2267	プログラミング基礎	小松崎将一	2		2			講義		
AN2281	CAD製図	高瀬唯	1		1			講義		
AN2285	力学Ⅰ	木下嗣基	1		1			講義	理科	
AN2286	力学Ⅱ	木下嗣基	1		1			講義	理科	
AN2287	応用力学Ⅰ	坂口敦	1		1			講義		
AN2288	応用力学Ⅱ	坂口敦	1		1			講義		
AN2272	流体力学	前田滋哉	1		1			講義	理科	
AN2271	水理学	前田滋哉	1		1			講義	農業	
AN2273	生物生産機械学実験	岡山毅	1		1			実験	農業	
AN3222	多孔体物性学	坂口敦	1			1		講義	理科	
AN3226	流体力学演習	林暁嵐	1			1		演習	理科	
AN3232	水理実験	林暁嵐	1			1		実験		
AN3234	土壌物理実験	坂口敦	1			1		実験		
AN3214	農業水文学	林暁嵐	2			2		講義	農業	
AN3223	土壌物理学	坂口敦	1			1		講義	農業	
AN3274	地球情報学	木下嗣基	1			1		講義	理科	
AN3275	地理情報学	木下嗣基	1			1		講義	農業	
AN3221	粒状体力学	坂口敦、臼井靖浩	1			1		講義	理科	
AN3272	農地環境工学Ⅰ	牧山正男	1			1		講義	農業	
AN3273	農地環境工学Ⅱ	牧山正男	1			1		講義	農業	

選択必修科目② (4単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN2265	農産物流通論	★宮部和幸	2		2			講義		
AN3208	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2			2		講義		
AN3217	農政学	西川邦夫	2			2		講義	農業	
AN3260	農業史・環境史	伊丹一浩	2			2		講義	農業	

選択科目

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2								講義	理科	
AN1121	基礎化学	長谷川守文、他	2	2								講義	理科	
AN1213	力学入門	山崎大	2	2								講義	理科	
AN2280	農村インフラ整備学	前田滋哉	2			2						講義	農業	
AN2112	統計学入門	庄山紀久子	2			2						講義		
AN2117	物理学入門	★未定	2			2						講義	理科	
AN2206	土壌肥料学	七汐小百合	2			2						講義	農業	
AN2212	遺伝学	久保山勉	2			2						講義	理科	
AN2209	微生物学	中島雅己	2			2						講義	理科	
-	生物学実験	菊田真吾、他	1			1						実験	理科	
AN2002	海外農村・農業体験実習	佐藤達雄、他	2			2						実習		
AN2251	園芸学Ⅰ	井上栄一	2			2						講義	農業	
AN2255	作物学	迫田翠	2			2						講義	農業	
AN2257	植物生理学	望月佑哉、他	2			2						講義	理科	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2			2						講義	理科	
AN2258	植物病理学	中島雅己	2			2						講義	農業	
AN2186	地域サステイナビリティ学概論	未定（坂上伸生）	1			1						講義		英語開講
AN2187	環境共生論	未定（成澤才彦）	1			1						講義		英語開講
AN2188	地域サステイナビリティ学特別講義Ⅰ	未定（★Grace、★Fia）	1			1						講義		英語開講
AN2189	地域サステイナビリティ学特別講義Ⅱ	未定（豊田淳、他）	1			1						講義		英語開講
AN3203	植物育種学	久保山勉	2					2				講義	農業	
AN3206	生態学	北嶋康樹	2					2				講義	理科	
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2					2				講義	農業	
AN3218	農業学	菊田真吾	2					2				講義		
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一	2					2				実習		
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2					2				講義		
AN3235	農場実習	七汐小百合、佐藤達雄	1					1				実習	農業	
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1					1				実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2					2				実習		
AN3233	地域社会調査実習	西川邦夫	1					1				実習		
AN3276	気候変動と適応	小寺昭彦	1						1			講義	理科	
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1						1			演習		
AN2291	地域共生特別講義		1			1		1		1		講義		累加可
AN2292	地域共生特別演習		1			1		1		1		演習		

4. 地域総合農学科 地域共生コース 特別カリキュラム(測量士補)

以下の専門科目から90単位以上を修得することが卒業の条件です。

また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。
- ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。
- ・なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

必修科目 (76単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	宮口右二、他	2	2								講義		
AN1216	線形代数学	木下嗣基	2	2								講義		
AN1115	生物学	安江健、他	2	2								講義	理科	
AN1203	経済学	内田晋	2	2								講義		
AN1207	農業経済学一般	内田晋、伊丹一浩、西川邦夫	2		2							講義	農業	
AN1208	地域総合農学入門	北嶋康樹、他	2		2							講義	農業	
AN1211	栽培学	★浅木直美、他	2		2							講義	農業	
AN1215	フードシステム学	池田真也	2		2							講義	農業	
AN2205	統計学	庄山紀久子	2			2						講義		
AN2210	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2			2						講義	農業	
AN2208	農業と水と土	牧山正男、前田滋哉、林暁嵐	2			2						講義	農業	
AN2283	国際農業論	未定	2			2						講義	農業	
AN2289	測地学	牧山正男	1			1		1				講義	理科	隔年開講
AN2290	測量学	牧山正男	1			1		1				講義	農業	隔年開講
AN2274	測量実習	牧山正男	2				2					実習		隔年開講
-	農学実習	七夕小百合、他	1			1						実習		指定クラス
AN2259	水文学	前田滋哉	2				2					講義	農業	
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2				2					講義	農業	
AN2282	農村計画学	牧山正男	2				2					講義		
AN2278	農作業学	小松崎将一	2				2					講義	農業	
AN2281	CAD製図	高瀬唯	1				1					講義		
AN2285	力学Ⅰ	木下嗣基	1				1					講義	理科	
AN2286	力学Ⅱ	木下嗣基	1				1					講義	理科	
AN2287	応用力学Ⅰ	坂口敦	1				1					講義		
AN2288	応用力学Ⅱ	坂口敦	1				1					講義		
AN2272	流体力学	前田滋哉	1				1					講義	理科	
AN2271	水理学	前田滋哉	1				1					講義	農業	
AN2273	生物生産機械学実験	岡山毅	1				1					実験	農業	
AN2267	プログラミング基礎	小松崎将一	2				2					講義		
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2					2				講義		
AN3201	環境経済学	内田晋	2					2				講義		
AN3212	農業経済学	内田晋	2					2				講義	農業	
AN3222	多孔体物性学	坂口敦	1					1				講義	理科	
AN3226	流体力学演習	林暁嵐	1					1				演習	理科	
AN3232	水理実験	林暁嵐	1					1				実験		
AN3234	土壌物理実験	坂口敦	1					1				実験		
AN3214	農業水文学	林暁嵐	2					2				講義	農業	
AN3223	土壌物理学	坂口敦	1					1				講義	農業	
AN3274	地球情報学	木下嗣基	1					1				講義	理科	
AN3275	地理情報学	木下嗣基	1					1				講義	農業	
AN3221	粒状体力学	坂口敦、臼井靖浩	1						1			講義	理科	
AN3272	農地環境工学Ⅰ	牧山正男	1						1			講義	農業	
AN3273	農地環境工学Ⅱ	牧山正男	1						1			講義	農業	
AN4001	ゼミナール	関係教員	1							1		演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8								8	実験		

選択必修科目 (4単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2265	農産物流通論	★宮部和幸	2				2					講義		
AN3208	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2					2				講義		
AN3217	農政学	西川邦夫	2					2				講義	農業	
AN3260	農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義	農業	

選択科目

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2								講義	理科	
AN1121	基礎化学	長谷川守文、他	2	2								講義	理科	
AN1213	力学入門	山崎大	2		2							講義	理科	
AN2280	農村インフラ整備学	前田滋哉	2			2						講義	農業	
AN2112	統計学入門	庄山紀久子	2			2						講義		
AN2117	物理学入門	★未定	2			2						講義	理科	
AN2206	土壌肥料学	七タ小百合	2			2						講義	農業	
AN2212	遺伝学	久保山勉	2			2						講義	理科	
AN2209	微生物学	中島雅己	2			2						講義	理科	
-	生物学実験	菊田真吾、他	1			1						実験	理科	
AN2002	海外農村・農業体験実習	佐藤達雄、他	2			2						実習		
AN2251	園芸学Ⅰ	井上栄一	2			2						講義	農業	
AN2255	作物学	迫田翠	2			2						講義	農業	
AN2257	植物生理学	望月佑哉、他	2			2						講義	理科	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2			2						講義	理科	
AN2258	植物病理学	中島雅己	2			2						講義	農業	
AN2186	地域サステイナビリティ学概論	未定（坂上伸生）	1			1						講義		英語開講
AN2187	環境共生論	未定（成澤才彦）	1			1						講義		英語開講
AN2188	地域サステイナビリティ学特別講義Ⅰ	未定（★Grace、★Fia）	1			1						講義		英語開講
AN2189	地域サステイナビリティ学特別講義Ⅱ	未定（豊田淳、他）	1			1						講義		英語開講
AN3203	植物育種学	久保山勉	2				2					講義	農業	
AN3206	生態学	北嶋康樹	2				2					講義	理科	
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2				2					講義	農業	
AN3218	農薬学	菊田真吾	2				2					講義		
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一	2				2					実習		
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2				2					講義		
AN3235	農場実習	七タ小百合、佐藤達雄	1				1					実習	農業	
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1					1				実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2					2				実習		
AN3233	地域社会調査実習	西川邦夫	1					1				実習		
AN3276	気候変動と適応	小寺昭彦	1						1			講義	理科	
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1						1			演習		
AN2291	地域共生特別講義		1			1		1		1		講義		累加可
AN2292	地域共生特別演習		1			1		1		1		演習		

5. 教育職員免許状取得のための履修案内

令和 7 年度入学生（25A）

教育職員免許状取得のための履修案内

(令和7年度入学者用)

I. 茨城大学農学部で取得可能な免許状の種類

本学部では、申請のうえ必要単位数を修得して卒業すると高等学校教諭一種免許状(理科)及び(農業)を取得できます。

また、学部卒業時に高等学校教諭一種免許状(農業)を取得して本学大学院農学研究科に進学した者は、必要単位数を修得することにより、大学院修了時に高等学校教諭専修免許状(農業)を取得できます。

課程の名称、免許状の種類

課程の名称		免許状の種類	免許教科
農 学 部	食生命科学科	高等学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	農 業
	地域総合農学科	高等学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	農 業

II. 卒業後の免許状取得について

卒業時に免許状取得を希望しなかった者、又は単位不足で取得できなかった者が、卒業後に免許状の取得を希望する場合は、当該科目の課程認定を受けている大学の科目等履修生などで不足する単位を修得し、都道府県の教育委員会に個人申請を行うことで免許状を取得することができます(本学にも科目等履修生の制度はあります)。その場合は、科目等履修生として履修する前年度の11月末までに必ず学務グループへ連絡してください。

ただし、本学入学後に免許法が改正されている場合は、新法の適用になるため、履修内容に注意が必要です。

III. 免許状取得に必要な単位数

1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目*1

教職免許上の科目区分名	必要単位数
日本国憲法	2
体育	2
外国語コミュニケーション	2
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	2

*1 原則1年次に修得してください(該当する本学の授業科目は「教職の手引き」を参照すること)。

2. 教育の基礎的理解に関する科目

教育の基礎的理解に関する科目のほとんどは、夏季休業期間に毎年開講されます（阿見地区での開講科目は隔年開講のものもあります）。これらの科目は卒業単位に含めることができません。（教育実習参加の必要条件になっている科目もありますので注意してください）。

科 目 名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
教職概論	2	1	水戸 前学期月5	必要
教育原理	2	1	水戸 前学期金5	必要
教育心理学	2	1	水戸 前学期集中	必要
特別な支援を必要とする子どもの理解と支援	1	1	水戸 後学期集中	必要
教育の制度と経営	2	3	阿見（未定）開講	必要
教育課程論	2	2	遠隔予定	必要

（注）履修年次が1となっている科目は、可能な限り1年次に修得してください。

（注）開講時期等は、掲示やmanaba、メールにて周知しますので必ず定期的に確認してください。（やむを得ない事情で開講年次が変更になる場合も連絡いたします。）

（注）履修年次が3年の科目は、国際食産業科学コースの学生に限り、留学との関係から事前に申し出があった場合、2年次での履修を認めることがあります。

3. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目に関する科目のほとんどは、夏季休業期間に毎年開講されます（阿見地区での開講科目は隔年開講のものもあります）。これらの科目は卒業単位に含めることができません。（教育実習参加の必要条件になっている科目もありますので注意してください）。

科 目 名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
総合的な学習の時間の指導法	1	3	遠隔予定	必要
特別活動論	1	3	阿見（未定）	必要
教育の方法と技術	2	2	阿見（未定）	必要
生徒指導並びに進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2	2	遠隔予定	必要
教育相談	2	※	遠隔予定	必要
ICTを活用した教育の理論及び方法	1	3	阿見（未定）	必要

（注）※は、2年次以降に開講予定です。詳細な履修年次や開講時期等は、掲示にて周知しますので、当該年度の掲示を必ず見るよう留意してください。（やむを得ない事情で開講年次が変更になる場合も連絡いたします。）

（注）履修年次が3年の科目は、国際食産業科学コースの学生に限り、留学との関係から事前に申し出があった場合、2年次での履修を認めることがある。

4. 教育実践に関する科目

教育実践に関する科目は卒業単位に含めることができません。

科 目 名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
教育実習	3	4	帰省実習（5月～10月）	
教職実践演習（中・高）	2	4	阿見（未定）	

5. 大学が独自に設定する科目

「**大学が独自に設定する科目**」は卒業単位に含めることができません。履修の詳細は、「教職課程の履修にあたって-履修の手引き-」を参照してください。

科 目 名	単位	履修 年次	備考
学校インターンシップ（教育支援）	1	1	学校インターンシップは選択科目のため、履修しなくても免許取得は可能ですが、教員を強く志望する学生は学校現場を体験できる貴重な機会となります。
学校インターンシップ（幼児児童生徒支援）	1	1	
学校インターンシップ（行事支援）	1	1	
学校インターンシップ（部活動支援）	1	1	

6. 教科及び教科の指導法に関する科目

それぞれの免許教科については、以下の履修基準で定められた単位数（36 単位）を満たすように修得する必要があります。

高等学校教諭一種免許状（履修基準）

免許教科	教科及び教科の指導法に関する科目	最低修得単位
理 科	物理学	1 以上
	化学	1 以上
	生物学	1 以上
	地学	1 以上
	物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験	1 以上
	教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	4 以上
	合計修得単位数	36※
農 業	農業に関する科目	1 以上
	職業指導	1 以上
	教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	4 以上
	合計修得単位数	36※

「教科及び教科の指導法に関する科目」における必修科目について

次ページ以降に示す科目のうち、必修科目については、卒業要件上は選択科目となっていたとしても、免許状を取得するうえで必修科目となっているものがありますのでご注意ください。

「教科及び教科の指導法に関する科目」における必修科目

免許 教科	教科及び教科の指導法に関する科目	対象となる必修科目
理 科	物理学	「物理学入門」
	化学	「基礎化学」
	生物学	「生物学」
	地学	「地学入門」
	物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験	「生物学実験」
	教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	「中等理科教育法Ⅰ」及び「中等理科教育法Ⅴ」
農 業	農業に関する科目	「地域総合農学入門」 「農業と水と土」 「栽培学」 「農業経済学一般」
	職業指導	「キャリア開発論」
	教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	「農業科教育法Ⅰ」及び「農業科教育法Ⅱ」

※ 農学部で開講されている上記科目が対象。

高一理科（食生命科学科）

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数
物理学	物理学入門	2
	力学Ⅰ	1
	力学Ⅱ	1
	流体力学演習	1
	多孔体物性学	1
	粒状体力学	1
化学	基礎化学	2
	一般化学	2
	基礎生化学	2
	基礎有機化学	2
	酵素化学	2
	基礎食品分析化学	2
	生物有機化学	2
	地圏生態化学	2
生物学	生物学	2
	動物生理学	2
	植物生理学	2
	微生物生態学	2
	植物環境応答学	2
	植物分子遺伝学	2
	動物形態学	2
	分子細胞生物学	2
地学	地学入門	2
	地球情報学	1
	測地学	1
	陸域環境科学	2
物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験	機器分析実験	1
	食生命化学実験	1
	生物学実験	1
	微生物学実験	1
	植物生理学実験	1
教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	中等理科教育法Ⅰ※	2
	中等理科教育法Ⅴ※	2

※これらの科目は卒業要件外科目のため、卒業単位に含めることができません。

高一理科（地域総合農学科）

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数
物理学	物理学入門	2
	力学入門	2
	力学Ⅰ	1
	力学Ⅱ	1
	流体力学	1
	流体力学演習	1
	多孔体物性学	1
	粒状体力学	1
化学	基礎化学	2
	基礎有機化学	2
	生物有機化学	2
	地圏生態化学	2
生物学	生物学	2
	植物生理学	2
	遺伝学	2
	応用昆虫学	2
	微生物学	2
	生態学	2
地学	地学入門	2
	気候変動と適応	1
	地球情報学	1
	測地学	1
	陸域環境科学	2
物理学実験、化学実験、 生物学実験、地学実験	生物学実験	1
	応用動物昆虫学実験	1
教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	中等理科教育法Ⅰ※	2
	中等理科教育法Ⅴ※	2

※これらの科目は卒業要件外科目のため、卒業単位に含めることができません。

高一農業（食生命科学科）

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数
農業の関係科目	地域総合農学入門	2
	農業と水と土	2
	栽培学	2
	農業経済学一般	2
	基礎微生物学	2
	食品化学	2
	代謝生化学	2
	動物行動学	2
	動物栄養学	2
	食品化学実験	1
	遺伝子制御学	2
	動物管理学	2
	動物飼料学	2
	動物解剖学・生化学実験	1
	食品機能学	2
	畜産物科学	2
	食品加工実習	1
	動物育種学	2
	牧場実習	1
	動物生殖学	2
	応用微生物学	2
	動物保健衛生学	2
	食品製造学	2
	食品保蔵学	2
	食品衛生学	2
	基礎土壌学	2
職業指導	キャリア開発論	2
教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	農業科教育法Ⅰ※	2
	農業科教育法Ⅱ※	2

※これらの科目は卒業要件外科目のため、卒業単位に含めることができません。

高一農業（地域総合農学科）

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数
農業の関係科目	地域総合農学入門	2
	農業と水と土	2
	栽培学	2
	農業経済学一般	2
	土壌肥料学	2
	作物学	2
	園芸学Ⅰ	2
	植物病理学	2
	生物生産機械学	2
	農業経営学	2
	農業生産技術学	2
	作物学実験	1
	園芸学実験	1
	植物病理学実験	1
	農場実習	1
	工芸・飼料作物学	2
	園芸学Ⅱ	2
	生物生産機械学実験	1
	農業水利学	2
	農作業学	2
	農地環境工学Ⅰ	1
	農地環境工学Ⅱ	1
	国際農業論	2
	フードシステム学	2
	農業経済学	2
	農政学	2
	農業史・環境史	2
	水理学	1
	水理学演習	1
	土質工学	1
	植物育種学	2
	水文学	2
	地理情報学	1
	土壌物理学	1
	測量学	1
	農村インフラ整備学	2
職業指導	キャリア開発論	2
教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	農業科教育法Ⅰ※	2
	農業科教育法Ⅱ※	2

※これらの科目は卒業要件外科目のため、卒業単位に含めることができません。

Ⅳ. 教育実習について

1. 教育実習に係る日程概略

教育実習を希望する学生は2年次の1～2月頃のガイダンスに必ず出席してください。それ以降の申し込みは受け付けません。下表のオリエンテーション等の詳細な日程や場所、注意事項等は、その都度掲示で周知しますので掲示に注意してください。

2年次	1～2月	ガイダンス	(阿見キャンパス)
3年次	4月	事前指導Ⅰ	(阿見キャンパス)
	12月	事前指導Ⅱ	(阿見キャンパス)
	1月	事前指導Ⅲ	(阿見キャンパス)
	2月	事前指導Ⅳ	(阿見キャンパス)
4年次	4月	事前指導Ⅴ	(阿見キャンパス)
	5月～10月	教育実習(2週間以上)	(出身校等)
	12月	事後指導	(阿見キャンパス)

2. 教育実習に関する注意事項等

(1) 教育実習の実習校

原則として教育実習希望者が自分で出身中学校又は高等学校に依頼します(原則帰省実習)。

具体的な手続き等は3年次4月の事前指導Ⅰで説明します。なお、大学は実習校の斡旋等を基本的に行いません。

(2) 教育実習時に必要な条件

①次の単位を4年次4月までに修得していることが条件です。

3年次4月時点の要件	4年次4月時点の要件
・「教育の基礎的理解に関する科目」の内、「教職概論A」「教育原理A」「教育心理学A」を修得済であること。 ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、「教育の方法と技術A」を修得済みであること。 ・「教育課程論A」又は「生活指導並びに進路指導及びキャリア教育の理論と方法」のいずれか一方を修得済であること。 ・(理科)「中等理科教育法Ⅰ」を修得済であること。 ・(農業)「農業科教育法Ⅰ」又は「農業科教育法Ⅱ」のいずれか一方を修得済であること。 ・「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の3年次開講科目について履修中・履修予定であること。	・「教育の基礎的理解に関する科目」を全て修得済であること ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を全て修得済であること ・(理科)「中等理科教育法Ⅰ・Ⅴ」を修得済であること。 ・(農業)「農業科教育法Ⅰ・Ⅱ」を修得済であること。 ・上記の教科教育法の科目を含めて、「教科及び教科の指導法に関する科目」を32単位以上修得済であること。 ・免許取得に必要な残りの科目について、履修中・履修予定であること。

②教育実習希望者は、必ず事前事後指導として本ページ1記載のオリエンテーション等(1単位分)に全て出席しなければなりません。なお、このオリエンテーション等にやむを得ない理由以外で欠席又は遅刻した者は、教育実習に参加できなくなります。

[オリエンテーションの主な内容]

教育実習の心得、教育実習の目標・内容・観察、漢字かな遣いの指導、教育実習の特色と教科指導法、教育実習に際しての健康管理、その他。

[教育実習体験報告会の内容]

教育実習終了者(4年生)が教育実習の成果等について発表する(事後指導)。教育実習予定者(3年生)は発表を聴講して積極的に質問をするとともに、発表会終了後のグループ懇談会に必ず参加し、教育実習について理解を深める(事前指導Ⅱ)。

(3) 教育実習の期間及び単位数

①教育実習期間：4年次の5月から10月までの期間中の2週間（2単位分）です。

②単位数：実習を良好な成績で終了し、成績評価が合格の者には、3単位（事前事後指導1単位・実習2単位）が与えられます。ただし、卒業単位には含まれません。

(4) 実習校への謝金

実習校には謝金を支払います（実習校によるが2週間・2単位で10,000円程度）。学生個人での負担となります。ただし、実習校側で謝金の収受を辞退される場合もあります。

なお、「教育実習履修簿」「評価表」「出勤簿」等については、学生が本学所定のものを持参します（4年次生の教育実習ガイダンス（事前指導Ⅴ）にて配付予定）。

V. 免許状の授与申請について

卒業時に免許状の授与を希望する者は、一括申請の手続きを行わなければなりません。一括申請手続きとは、大学が学生個人に代わって申請書を取りまとめ、茨城県教育委員会に一括して申請手続きを行うもので、卒業時に免許状を取得する唯一の方法です（一括申請手続きの時期及び方法は、例年11月頃掲示にて周知します。）。

一括申請手続きを行わない者は、卒業後に、個人で住所地（帰省先）の都道府県教育委員会に申請することになります。個人申請の手続きでは、卒業した年の5月以降にならないと受け付けてくれない場合が多いようです（詳細は各都道府県教育委員会の指示を受けてください。）。

※編入学生の場合は、一度学務グループの窓口までお問い合わせください。

Ⅲ 教育プログラム

プラスⅠプログラム

1. プラスⅠプログラムとは

茨城大学では、幅広い教養や分野を超えた融合的専門知を身につけることができるよう、全学部学生を対象にプラスⅠ（アイ）プログラムを設けています。プラスⅠプログラムは、専門分野を異にする学生がコミュニケーションを図りながら共に学ぶ機会を提供し、プログラムを履修することで、協働しながら、複雑化多様化した社会における諸課題の解決をけん引できる実践力を持った人材の育成を目指します。開設しているプログラムは次のとおりです。

○グローバルコミュニケーションプログラム（GCP）

グローバル化が進む現代社会で必要とされる多様な人々とのコミュニケーション能力の育成を図り、グローバルに活躍できる力を養成するプログラムです。

○地域志向教育プログラム

地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合う素養を醸成する「地域志向教育」を行います。地域の現状と向き合いつつ、課題改善に向けた既存の取り組みに参画したり、新たな企画を先導したりできる学生を育成することを目的としたプログラムです。

○サステナビリティ学教育プログラム

地球社会の持続可能な発展を導くための新しい学問分野であるサステナビリティ学を通して、気候変動など地球環境問題の原因と解決等、将来の地球と人間社会に関わる複雑で多面的な問題への学際的な理解を促すプログラムを提供します。

○数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

人工知能(AI)及び数理・データサイエンスの基礎的素養を醸成するとともに、Society5.0 等のデータ・デジタル化社会や持続可能性社会（SDGs 等）に向け、データサイエンスを活用した課題解決能力やイノベーションを創出する能力を養成することを目的としたプログラムです。

○アントレプレナーシップ教育プログラム

起業家精神（アントレプレナーシップ）・社内起業家精神（イントレプレナーシップ）を醸成し、それらを実践するため、文理横断的な普遍的な知識・汎用的技能を有し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材を養成することを目的としたプログラムです。

○日本語教員養成プログラム

外国語としての日本語を指導するために必要な専門的基礎知識と基礎能力を修得するためのプログラムです。人文社会科学部、及び教育学部の学生を対象とします。

各プログラムは、プラスⅠプログラム履修案内にて詳細を確認してください。

食品衛生管理者等任用資格プログラム履修要項

1. 食品衛生管理者等任用資格プログラムについて

食生命科学科の所属学生は、所定の科目を修得して卒業することで、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得することができます(本プログラムは、地域総合農学科の学生は適用外となります)。

任用資格の取得希望者は、卒業予定年度の5月末日までに「食品衛生管理者等任用資格プログラム申請書」に必要事項を記入の上、学務グループまで申請書を提出してください。申請し、要件を満たした者は、学位記とともにプログラム修了証が与えられます。

2. 食品衛生管理者等任用資格の要件について

本プログラムの修了要件は、下表のとおりです。

区 分	科目名	プログラム科目区分		単位数
		必修	選択	
A 群 化学関係	一般化学	2		
	基礎食品分析化学	2		
	機器分析実験	1		
	基礎有機化学	2		
	小計	4	科目	7
B 群 生物化学関係	基礎生化学	2		
	代謝生化学	2		
	食品化学	2		
	食品化学実験		1	
	毒性学		2	
	小計	5	科目	9
C 群 微生物学関係	基礎微生物学	2		
	微生物学実験		1	
	食品製造学	2		
	小計	3	科目	5
D 群 公衆衛生学関係	食品衛生学	2		
	小計	1	科目	2
A～D 群のプログラム必修科目を修得し、かつ A 群～D 群の単位数の合計が 22 単位以上であること				
E 群 その他関連科目	畜産物科学	2		
	食品機能学		2	
	基礎土壌学	2		
	酵素化学		2	
	応用微生物学		2	
	生物有機化学	2		
	動物生理学	2		
	植物生理学	2		
	植物生理学実験		1	
	動物解剖学・生化学実験		1	
	食品加工実習		1	
	小計	11	科目	19
	小計 (E)	10	9	19
E 群のプログラム必修科目を修得し、かつ A 群～E 群の単位数の合計が 40 単位以上であること。				
A 群～E 群の <u>単位数</u> 合計		29	13	42

(注) 本プログラム必修科目の履修に当たっては、4 年次での履修が必要になる場合があります。

年 月 日

食品衛生管理者等任用資格プログラム申請書

食品衛生管理者等任用資格プログラムについて、下記のとおり申し込みます。

学生番号		学生氏名	
前年度までの 修得単位数	A群	単位	D群 必修： 単位 選択： 単位
	B群	単位	E群 必修： 単位 選択： 単位
	C群	単位	合計 単位

- ・ 申請書の提出期限は卒業予定年度の5月末日（末日が休日の場合は直前の平日）までです。
- ・ 申請内容に変更等が生じた場合は、農学部学務グループへ早急に連絡してください。

農学分野データサイエンス教育プログラム

1. 「農学分野データサイエンス教育プログラム」について

昨今のデジタル社会において「データサイエンス」は、社会で活躍するにあたって身につけるべき基礎的な教養と捉えられつつあります。農学分野においても例外ではなく、気象データ、生育データなど様々なデータを大量に扱う必要があり、データサイエンス教育の必要性が高まっています。また AI と呼ばれる機械学習等を用いた農学分野の課題に対する取組みも、すでに数多く社会実装されており、それらを活用できる農学分野の専門知識を持ったデータサイエンティストの需要も年々高まっています。

なお、本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）^{注）}」に認定されました。（認定期限：令和 10 年 3 月 31 日）

注）文部科学省の同制度は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力（リテラシーレベル）や、課題を解決するための実践的な能力（応用基礎レベル）を育成するため、これらの知識や技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程（教育プログラム）を文部科学大臣が認定・選定して奨励するものです。



2. プログラムで育成する人材

農学分野データサイエンス教育プログラムでは、農学分野の専門知識を有し、かつ以下の能力を持つデータサイエンティストの養成を目的とします。

- ・データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力
- ・データサイエンスを活用し課題解決につなげる基礎能力
- ・農学分野の実課題にデータサイエンスを応用するための大局的な視点から俯瞰する能力

3. プログラムの構成

表 1 に本プログラムの科目区分を、表 2 にカリキュラムマップを示します。データサイエンティストとしての素養を身につけるためには、数学的基礎をはじめとする、データサイエンスに関わる幅広い素養が求められます。また、データサイエンスを活用して農学分野の実課題を解決するためには、当然のことながら、農学分野の専門的知識も身につける必要があります。そのための科目を必修としてあります。

データサイエンスを実際に専門科目の中で、どのように活用されるのかを理解するために、プログラム対象となる専門科目群から、3 単位以上を取得してください。各科目のデータサイエンス教育的要素はシラバスに記載されているので、それらも選択の参考にしてください。

このプログラムは、農学分野におけるデータサイエンティストとしての素養を身につけることを狙いとしていますので、単に修了要件を満たすだけでなく、データサイエンスに関わる正課外活動にも意欲的に取り組んでください。

表1 農学分野データサイエンス教育プログラムの科目区分

科目の区分	科目	必修・選択必修	履修年次
基盤教育科目	情報リテラシー*	2単位必修	1年次
	データサイエンス・AI入門*	2単位必修	1年次
専門科目	統計学もしくは統計学入門	2単位必修	2年次
	プログラミング基礎	2単位必修	2年次
	農学実習*	1単位必修	2年次
	プログラム対象の専門科目群 (動物行動学、動物管理学、農作業学、 作物学実験、 生物生産機械学、地理情報学)	3単位以上選択	2、3年次
		11単位以上	

*プログラム参加の有無にかかわらず必修科目

表2 農学分野データサイエンス教育プログラムのカリキュラムマップ

1年次	前学期	1Q	情報リテラシー				
		2Q					
	後学期	3Q	データサイエンス・AI入門				
		4Q					
2年次	前学期	1Q	統計学入門		統計学	農学実習	プログラム 対象の専門 科目群
		2Q					
	後学期	3Q	プログラミング基礎				
		4Q					
3年次	前学期	1Q					
		2Q					
	後学期	3Q					
		4Q					
4年次	前学期	1Q					
		2Q					
	後学期	3Q					
		4Q					

5. プログラムの修了

上記の修了要件を充足した場合は、プログラムの修了証を交付します。

IV. 学生生活

1. 保健室

農学部では、健康で快適に学生生活が送れるように、健康相談や健康指導等を農学部管理棟1階の保健室で常勤の看護師が対応しています。

[看護師常駐時間]

月～金 8:30～17:15 (昼休み 12:00～13:00)

※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇(年末年始)を除く

水戸キャンパスでは保健管理センターが利用できます。医師も常駐しています。

● 健康診断

健康診断には、定期健康診断、特殊健康診断があります。

[定期健康診断]

毎年1回、実施しますので必ず全員受診してください。都合で受診できない場合は事前に保健室の係にご相談ください。

受診日は1年次は保健管理センター、2年次以降は保健室からの掲示などにて確認してください。

未受診の場合には、奨学金、実習、就職及びその他の事情で健康診断証明書が必要になった場合でも発行されません。各自の負担により医療機関を受診し、健康診断証明書を発行してもらうことになります。

[特殊健康診断]

毎年1回、11月頃に実施します。該当学生は事前に特殊健康診断申込書で申し込みの上、受診してください。学部4年次以上で有害化学物質(有機溶剤及び特定化学物質等)を扱う学生が対象です。

● 健康診断証明書

奨学金申請、就職試験、受験等により健康診断証明書が必要なときは、学生証(ICカード)を用いて、証明書自動発行機から受けとることができます。証明書自動発行機から発行できないときは、保健室の係にご相談ください。

[証明書自動発行機で発行する場合]

稼働時間: 8:30～18:00

(時間外、土曜日、日曜日、休日、祝日は稼働しません。)

[保健室で証明書を発行する場合]

保健室で「証明書交付願」に必要事項を記入、保健室の係に提出してください。

※ 代理人へのお渡しはできません。

● 就職に係る健康診断書

就職先から特に指定がないときには、証明書自動発行機から発行された健康診断書を提出できます。

次の場合、自費により医療機関で受診し健康診断書を発行してもらってください。その際は、保健室の係にご相談ください。

- ・就職先に提出する健康診断書の記載項目について、定期健康診断の受診項目で不足する場合
- ・就職先への提出期日が、定期健康診断実施日より前の場合

● 予防接種

教育実習やインターンシップ等に参加する学生に対して、麻疹（はしか）の抗体検査及び予防接種（対象は抗体陰性者）を受けるよう指導しています。

● 診察・検査・応急処置・健康相談・医療機関への紹介

けがをした時、体調が悪い時など症状に応じて、医師の診察・応急処置（休養）を行っています。薬が必要な場合には、医師の診察が必要となります。

また、近隣の医療機関の案内や紹介も行っています。

学校医の診察が毎月1回ありますので、気になる症状についての診察や解説、日常生活上の注意など、何でもご相談ください。必要に応じて専門医を紹介します。なお、学校医の診察日は掲示、又は保健室で確認してください。

その他、必要な場合には、次のような検査ができます。

1) 常時行うことができるもの：身体測定・血圧測定・視力検査・体脂肪測定・握力測定

2) 医師の指示に基づき行う検査：尿検査・心電図検査

大学内での突然の体調不良やケガが発生した場合は、保健室（TEL：029-888-8529 又は 029-888-8522）に連絡してください。

2. 保険制度

学生が大学生活において、傷害を負った場合等に対処する保険として、「学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）及び「学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）」があります。

怪我の状況により、保険金の請求ができますので、保健室の係にお問い合わせください。

● 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）

国内外において学生が、正課中、学校行事中、学校施設内、学校施設外で大学に届け出た課外活動中、通学中の事故により身体に傷害を被った場合に対処する保険です。

● 学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）

国内外において学生が正課、学校行事及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財産を損壊したりすることにより被る法律上の損害賠償責任に対処する保険です。

● 学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

学生生活の24時間を補償するもので、病気・ケガ等の保険及び賠償責任保険等学生生活全般に保障範囲を広げた保険です。

付帯学総の加入は学研災加入者に限られます。

3. 困りごとや悩みごとの相談

学生の皆さんが生き生きと学生生活を送ることができるよう、いろいろな困りごとや悩みごとについて、学生相談を行っています。

どんなことでも構いません。問題を一人でため込まず気楽に相談してください。もちろん相談内容については、厳しく秘密が守られます。

〔 茨大なんでも相談室 阿見分室 〕

なんでも相談室では、学生のあらゆる相談に応じます。

困っていること、悩んでいることがあれば、どんなことでも相談してください。

相談室で話されたこと、また、利用者のお名前は一切外部には漏れることはありません。

なんでも相談室では、インテーカー（相談受付者）が相談内容に応じて、より適切な相談員を紹介いたします。

○相談は次のような方法でできます。

＊直接来談：農学部管理棟 1 階の保健室又は学生相談室にいらしてください。

開室時間 8：30～17：00 まで（昼休みは 12：00～13：00）

※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇（年末年始）を除く

＊電話：029-888-8528 または 029-888-8691

＊手紙：〒300-0393 稲敷郡阿見町中央 3-21-1

茨城大学農学部「茨大なんでも相談室」阿見分室あて

● 相談は、茨大なんでも相談室、同日立分室、同阿見分室、いずれの場所でも受け付けます。

● 開室時間は、時期により変更することがあります。

※茨大なんでも相談室の詳細については、大学ホームページの「茨大なんでも相談室」
<https://www.ibaraki.ac.jp/education/studentssupport/here/>をご覧ください。

〔 カウンセラーによるカウンセリング 〕

大学生になると活動範囲が広がり自分と向き合う機会も増えます。勉強や将来の事、人間関係などで困難な状況に遭遇するかもしれません。そのような時にカウンセラーと話をすると、自分の考えを整理でき、どうしたいのか、何ができるのかなどが見えてきて、問題解決につながっていきます。

カウンセラーとして、精神科医と臨床心理士がカウンセリングをしております。カウンセリングを希望する場合は、まず保健室で予約を取ってください。

精神衛生上及び 健康上の問題全般	カウンセリング（精神科医）：朝田 武（日時は後日掲示でお知らせします） カウンセリング（臨床心理士）：叶 香代（毎週 月・水曜日 10：00～17：00） 看護師（保健室常駐の係員）：深谷 美架 ※カウンセリングは、 <u>予約制</u> です。
---------------------	--

＊保健管理センターでもカウンセリングが受けられます。

保健管理センター利用案内 <https://www.health.ibaraki.ac.jp/>

4. ハラスメントの相談

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の防止及びそれらハラスメントに起因する問題が生じた場合に対応するために「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定し、学生等の教育研究環境の維持につとめています。

ハラスメントの被害にあった場合は、一人で悩んだりせずに、友人など理解ある人や相談員に相談してください。相談員は、相談者のプライバシーを守り、相談内容については秘密を厳守します。相談内容に対するその後の対応は、相談者自身の意向を最大限に尊重して行われます

	食生命科学科	地域総合農学科
ハラスメント相談員	各学科の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。	
[セクシャル・ハラスメントの例] ・就職の斡旋や研究指導などを条件に、性的な関係を強要されること [アカデミック・ハラスメントの例] ・研究意欲をそがれること ・研究成果やアイディアを流用・盗用されること 大学ホームページ https://www.ibaraki.ac.jp/education/studentssupport/harassment/ ハラスメント相談窓口 Tel 029-228-8057 ✧ 自分が所属する学部以外の相談員に相談してもかまいません。 ✧ 保健管理センターと保健室もハラスメントの相談窓口になっています。		

5. 修学及び学生生活上の相談

修学上の問題や学生生活上の相談などがあるときは、学生担任又は下記の委員に相談してください。

【 教務委員・学生委員 】

相談内容	食生命科学科	地域総合農学科
修学上の問題全般 (教務委員)	各学科の相談員は 4 月以降に掲示にてお知らせします。	
学生生活全般 (学生委員)		
【修学上の問題の例】 ○授業の履修方法（単位のとり方、時間割の組み方等）がわからない。 ○授業が理解できない、ついていけない。研究が進まない。 ○教員免許などの資格のとり方がわからない。 ○留学の仕方がわからない。 ○学部・学科が自分に合わないので、転学部、転学科したい。 ○他大学を受験したい。 【学生生活について】 ○大学に行きたくない。留年、休学したい。 ○交通事故にあった、交通事故を起こした。 ○就職活動で困っている。 ○入学料、授業料の免除、奨学金の受け方がわからない。 ○大学院に進むかどうか迷っている。 ○先輩や教員とトラブルがある。		

【 修学支援 】

学生生活を送る中で、人間関係・学修・修学・就職活動上の「問題」や「困難さ」に一緒に向き合って、サポートする修学支援員がいます。修学支援員は「問題」や「困難さ」を整理し、解決のための道筋や、実行に移すための方法を考え、その実行そのものをサポートします。

例えば、「自分の言いたいことを上手く伝えられない」「相手の言いたいことがよく分からない」などコミュニケーションで困っている、「集中力が続かず、課題がこなせない」「レポートの書き方がわからない」などの

学修について問題があるときにも支援をしていきます。

また、本人からだけでなく、教職員や保護者、友人や知人からの要請も支援の出発点としていますので、周りに困っている方がいるときにも、修学支援員に相談してください。

修学支援	相談時間：毎週 火・木・金曜日 10:00 ～ 16:00 ※修学支援相談員については、別途掲示等でお知らせします。 場 所：学生相談室（保健室隣） 相談方法：修学支援員在籍中の時間に学生相談室にいらしてください。 その他の時間や、相談中の場合は保健室で予約を取ってください。
------	--

6. 農学部における学生支援

農学部では下記の学生支援制度を実施しています。

[阿見オリエンテーション（対象：1年次生）]

目的：農学部を知り、研究や勉学についての目標設定や意欲向上をはかることを目的としています。同級生や在校生、教職員とのつながりをつくるきっかけともなります。

内容：「大学入門ゼミ」（1年次生対象基盤教育科目）の一部として実施します。農学セミナー（大学院生による研究紹介）、施設・研究室見学などをとおして、農学部の研究活動や学修の方法や方向性を知ります。オリエンテーションの成果は各自で整理して発表します。

[1年次全員面談（対象：1年次生）]

目的：学生担任が学生の個別面談を行い、勉学や生活について細かな指導をします。

内容：学生担任が1年次生全員を対象として個別面談を前後学期に各1回実施します。個々の学生にあった勉学・生活上の指導を行い、4年間をとおして学生を支援しています。

[クラス委員制度（対象：全学年）]

目的：学生の主体的活動を強化するとともに、大学との連携を密接にする制度です。

内容：各学年・各学科から3名以上のクラス委員を選出し、コース・系の決定に際しては適宜増員する場合があります。クラス委員は大学側からの連絡を伝達するとともに、学生の要望を大学側に伝え、定期的に学部長等と懇談します。全学年のクラス委員が参加するクラス委員会を開催し、学年間の連携も密にします。

[保証人への成績一括送付（対象：全学年）]

目的：学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有し、学生の勉学意欲の向上をはかる制度です。

内容：各学期終了後に保証人に成績を送付します（4年次後学期は送付しない）。学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有することにより、学生の学修への奨励や激励を行います。なお、保証人への成績送付の可否は、入学時に学生に確認して実施します。

[学生担任制度（対象：全学年）]

目的：農学部の教員から選出された学生担任が、学生の教務及び生活状況を把握し指導します。

内容：農学部では、「4年間同じ教員による学生担任制度」により学生を支援します。学生担任は、講義への出席状況及び単位取得状況などを把握し、適切な指導を行うとともに、学生からの相談に対応します。メール等も活用します。

2025 年度農学部新入生学生担任表

学 科	正 担 任※ 1	副担任※ 2
食生命科学科	大久保武、西澤智康、◎小針大助、 吉田悠太	(全学教育機構) 矢嶋 敬紘
地域総合農学科	◎久保山勉、迫田翠、西川邦夫、 小寺昭彦	

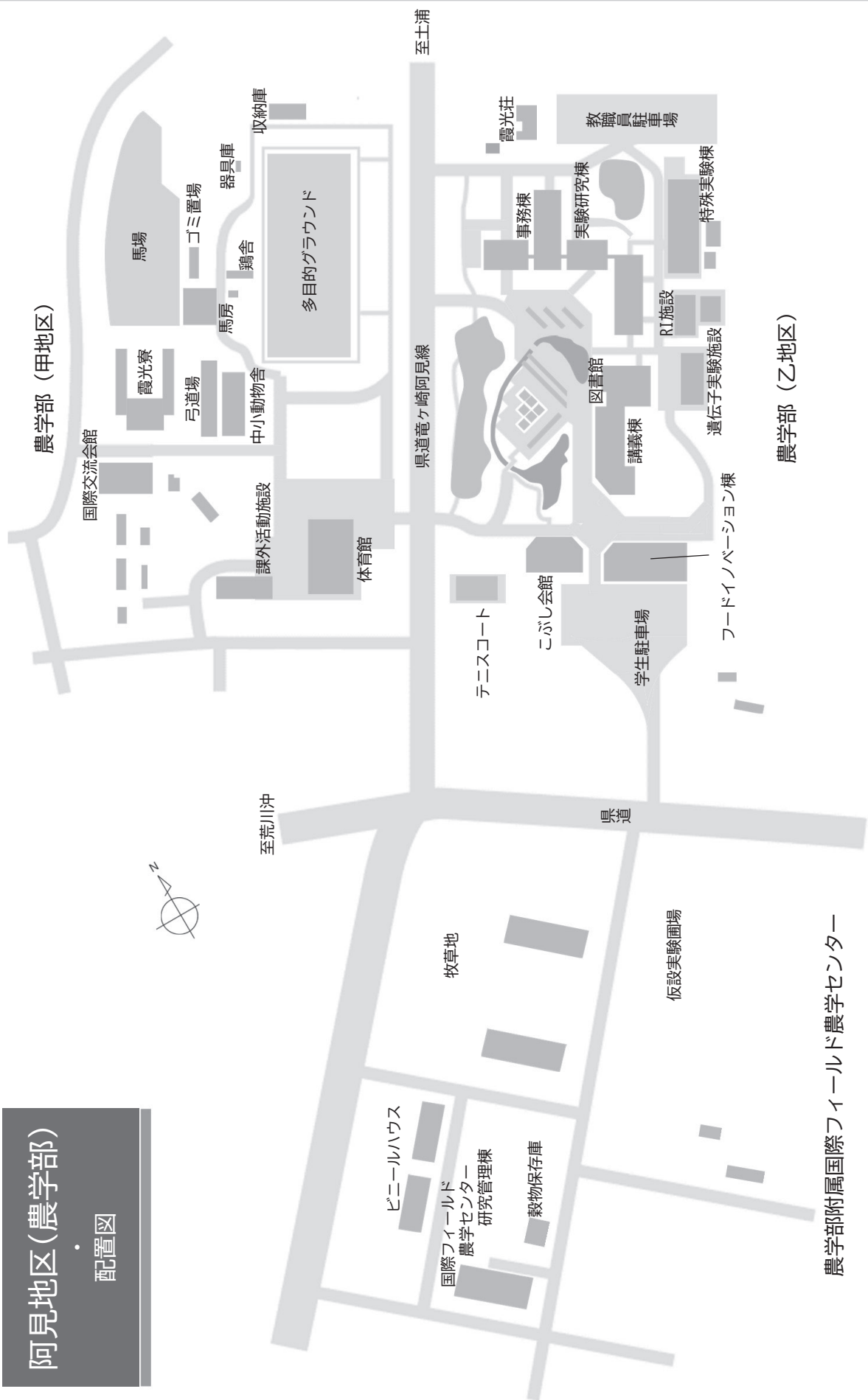
※ 1 正担任のうち、◎のある者を責任者とする

※ 2 副担任は、緊急時に対応するため水戸地区（全学教育機構）の教員が支援に当たります。

付 録

阿見地区(農学部)

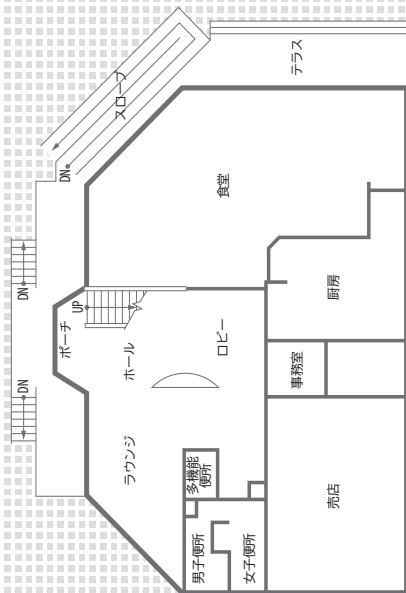
配置図



農学部附属国際フィールド農学センター

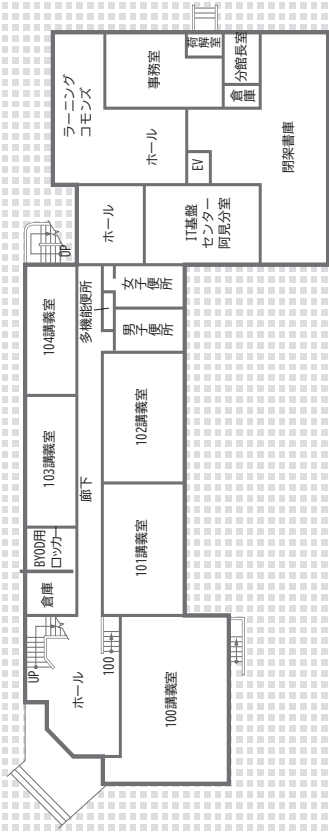
こぶし会館

1 階案内図



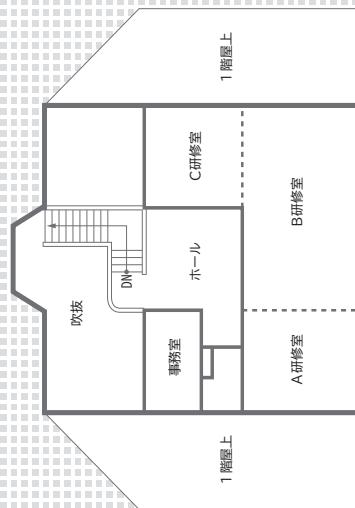
講義棟・図書館

1 階案内図



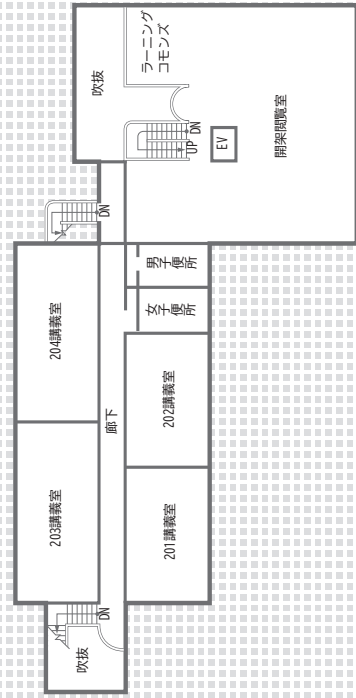
こぶし会館

2 階案内図



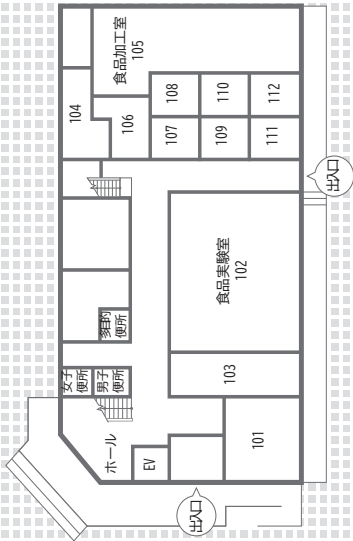
講義棟・図書館

2 階案内図



フードイノベーション棟

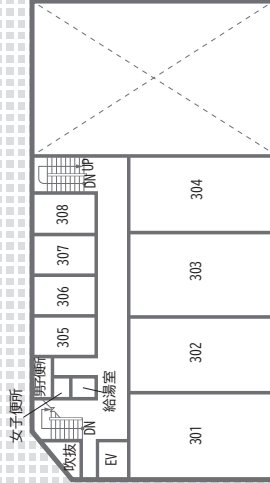
1 階案内図



部屋番号	室 名	内線番号
101	地域連携事務室・会議室	8130
102	食品実験室	8139
103	食品実験測定室	—
104	食品加工準備室	8132
105	食品加工室	—
106	女子更衣室	—
107	男子更衣室	—
108	前室	—
109	搬出室	—
110	包装室	—
111	搬入検収室	8131
112	原料精処理室	—

フードイノベーション棟

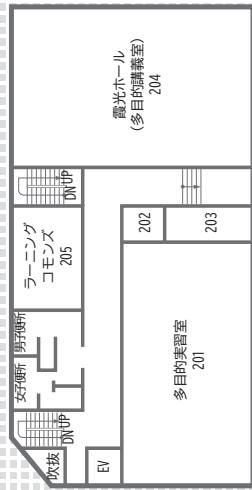
3 階案内図



部屋番号	室 名	内線番号
301	共同研究イノベーション施設Ⅰ	—
302	共同研究イノベーション施設Ⅱ	—
303	食品保藏学研究室	8137
304	産産物科学研究室	8138
305	食品保藏学演習室	8135
306	教員研究室 中村彰宏	8683
307	教員研究室 宮口石二	8580
308	産産物科学演習室	8136

フードイノベーション棟

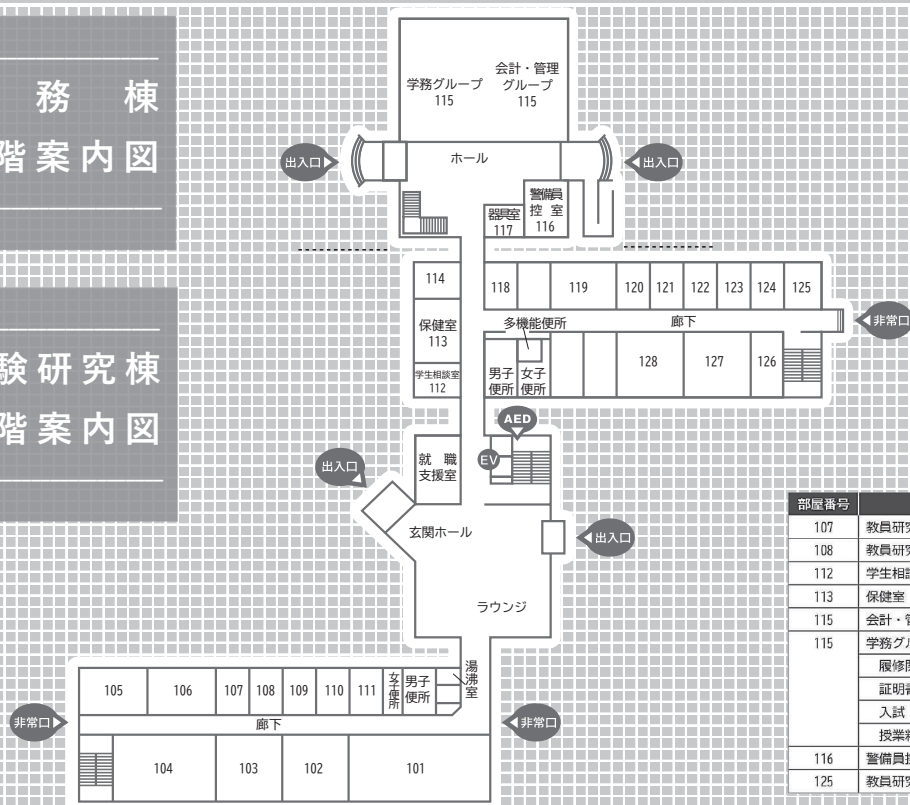
2 階案内図



部屋番号	室 名	内線番号
201	多目的実習室	8133
202	準備室	—
203	測定室	—
204	露光ホール (多目的講義室)	8134
205	ラーニングcommons	—

事務棟 1階案内図

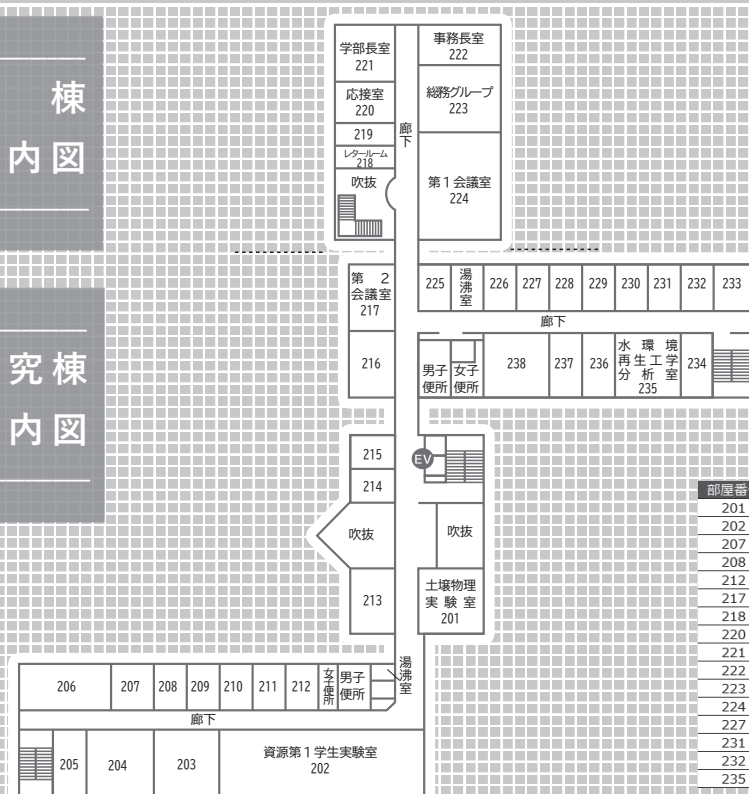
実験研究棟 1階案内図



部屋番号	室名	内線番号
107	教員研究室 戸嶋浩明	8662
108	教員研究室 長谷川守文	8660
112	学生相談室	—
113	保健室	8529
115	会計・管理グループ	—
115	学務グループ	—
	履修関係	8522
	証明書	8520
	入試	8519
	授業料・奨学金・留学生・就職	8518
116	警備員控室 (夜間救急)	8513
125	教員研究室 高瀬唯	8631

事務棟 2階案内図

実験研究棟 2階案内図



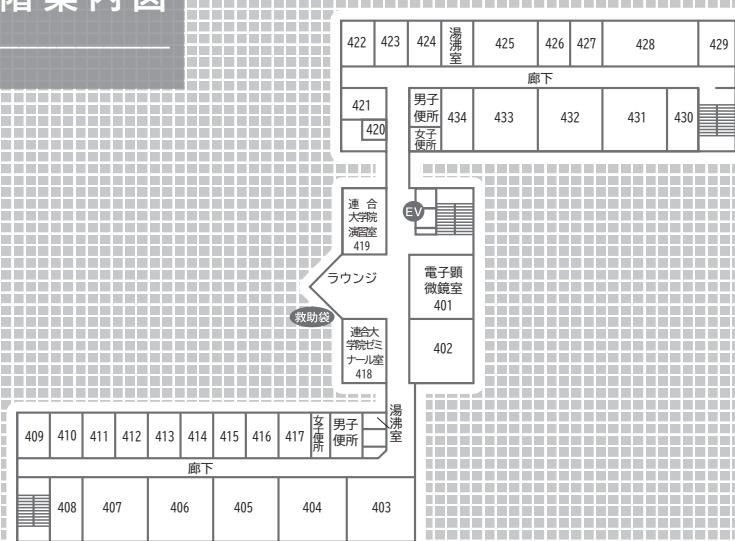
部屋番号	室名	内線番号
201	土壌物理実験室	—
202	資源第1学生実験室	—
207	教員研究室 西澤智康	8684
208	教員研究室 鈴木義人	8668
212	教員研究室 坂上伸生	8687
217	第2会議室	—
218	レタールーム	—
220	応接室	—
221	学部長室	—
222	事務長室	—
223	総務グループ	—
224	第1会議室	—
227	教員研究室 牧山正男	8597
231	教員研究室 前田滋哉	8601
232	教員研究室 黒田久雄	8602
235	水環境再生工学分析室	—

実験研究棟 3 階案内図



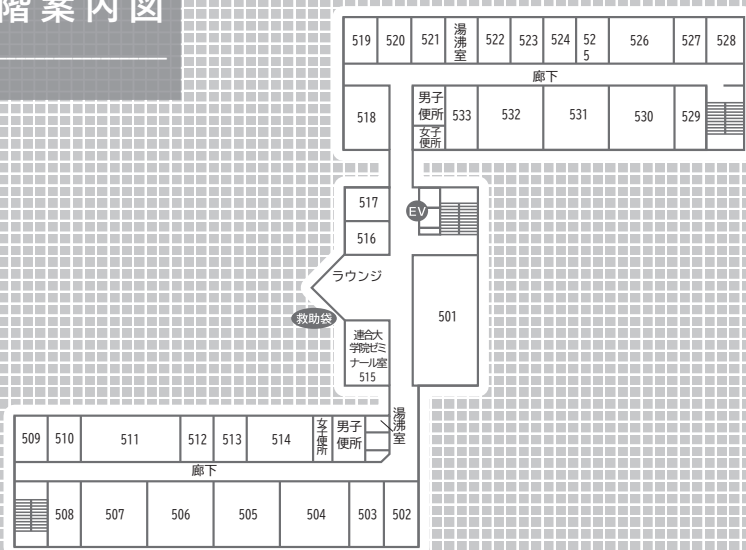
部屋番号	室 名	内線番号
301	植物生産科学第1学生実験室	8550
302	資源第2学生実験室	8669
307	教員研究室 西原宏史	8685
309	教員研究室 長南茂	8672
315	教員研究室 浅木直美	8552
316	教員研究室 井上栄一	8553
317	教員研究室 望月佑哉	8554
321	植物生産科学第2学生実験室	—

実験研究棟 4 階案内図



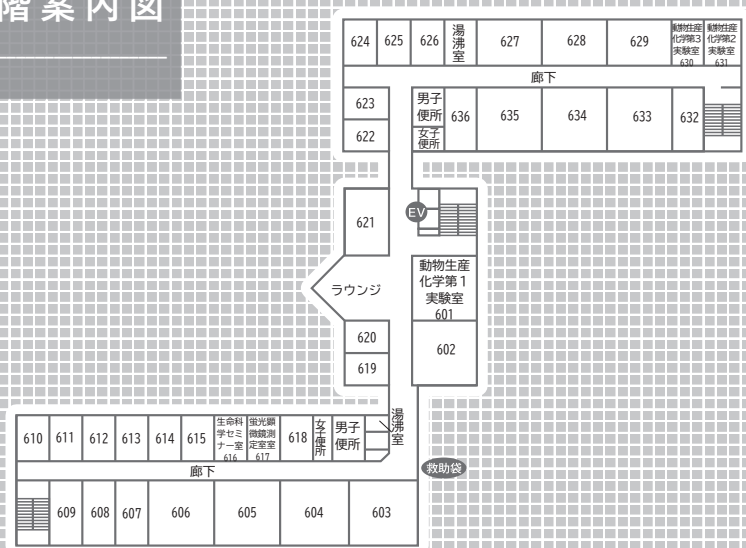
部屋番号	室 名	内線番号
401	電子顕微鏡室	—
409	教員研究室 小島俊雄	8673
410	教員研究室 白岩雅和	8680
412	教員研究室 鎗田孝	8681
413	教員研究室 上妻由章	8682
417	教員研究室 成澤才彦	8667
418	連合大学院ゼミナール室	—
419	連合大学院演習室	—
421	教員研究室 菊田真吾	8561
422	教員研究室 北嶋康樹	8559
427	教員研究室 中島雅己	8563

実験研究棟 5階案内図



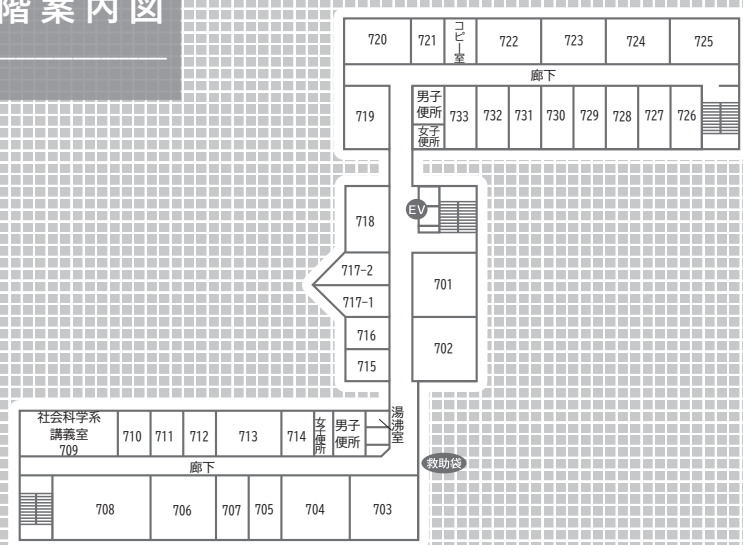
部屋番号	室名	内線番号
502	教員研究室 岡山毅	8592
509	教員研究室 久保山勉	8643
515	連合大学院ゼミナール室	-
516	教員研究室 安江健	8576
520	教員研究室 上塚浩司	8539
522	教員研究室 鈴木穂高	8572
528	教員研究室 中島弘美	8573

実験研究棟 6階案内図



部屋番号	室名	内線番号
601	動物生産化学第1実験室	-
610	教員研究室 中平洋一	8652
611	教員研究室 朝山宗彦	8651
616	生命科学セミナー室	-
617	蛍光顕微鏡測定室	-
619	教員研究室 金澤卓弥	8655
620	教員研究室 大久保武	8656
622	教員研究室 須藤まどか	8570
624	教員研究室 豊田淳	8584
625	教員研究室 小川恭喜	8571
631	動物生産化学第2実験室	-

実験研究棟 7階案内図



部屋番号	室名	内線番号
709	社会系講義室	-
717-1	非常勤講師等 控室	-
717-2	教員研究室 瀬尾匡輝	8588
722	教員研究室 内田哲	8632
723	教員研究室 伊丹一浩	8630
724	教員研究室 西川邦夫	8617
725	教員研究室 福与徳文	8616
728	教員研究室 長澤淳	8638
729	教員研究室 池田貴也	8617
730	教員研究室 木下嗣基	8635

茨城大学農学部 オフィスアワー(令和7年度)

学生からの質問・相談等に応じるため、教員はそれぞれの研究室で待機しています。
この待機している時間を「オフィスアワー」と呼んでいます。
これ以外の時間にも都合の許す範囲で対応します。また、メールでの質問・相談等はいつでも歓迎します。
電話をする場合は、次のとおりダイヤルしてください。

外線電話を利用する場合：０２９－８８８－（４桁の内線電話番号）

学科	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
					前学期		後学期	
食	朝山 宗彦	611	munehiko.asayama.777@vc.ibaraki.ac.jp	8651	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	上塚 浩司	520	koji.utsuka.k9@vc.ibaraki.ac.jp	8539	月	17:00 - 18:45	月	17:00 - 18:45
	大久保 武	620	takeshi.ohkubo.0533@vc.ibaraki.ac.jp	8656	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	金澤 卓弥	619	takuya.kanazawa.omm@vc.ibaraki.ac.jp	8655	火	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	上妻 由章	413	yoshiaki.kouzuma.98@vc.ibaraki.ac.jp	8682	水	12:00 - 14:00	水	12:00 - 14:00
	小島 俊雄	409	toshio.kojima.1@vc.ibaraki.ac.jp	8673	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
生	小針 大助	IFC 205	daisuke.kohari.abw@vc.ibaraki.ac.jp	8705	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	坂上 伸生	212	nobuo.sakagami.soil@vc.ibaraki.ac.jp	8687	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	白岩 雅和	410	masakazu.shiraiwa.0701@vc.ibaraki.ac.jp	8680	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
命	鈴木 穂高	522	hodaka.suzuki.food@vc.ibaraki.ac.jp	8572	火	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
	鈴木 義人	208	yoshihito.suzuki.chemeco@vc.ibaraki.ac.jp	8668	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
	長南 茂	309	shigeru.chohnan.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8672	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	戸嶋 浩明	107	hiroaki.toshima.spb540@vc.ibaraki.ac.jp	8662	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
科	豊田 淳	624	atsushi.toyoda.0516@vc.ibaraki.ac.jp	8584	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	中平 洋一	610	yoichi.nakahira.41@vc.ibaraki.ac.jp	8652	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	中村 彰宏	FI 306	akihiro.nakamura.daru@vc.ibaraki.ac.jp	8683	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
	成澤 才彦	417	kazuhiko.narisawa.kkm@vc.ibaraki.ac.jp	8667	火	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
学	西澤 智康	207	tomoyasu.nishizawa.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8684	火	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
	西原 宏史	307	hirofumi.nishihara.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8685	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	長谷川 守文	108	morifumi.hasegawa.1@vc.ibaraki.ac.jp	8660	月～金	18:45 - 19:45	月～金	18:45 - 19:45
	宮口 右二	FI 307	yuji.miyaguchi.meat@vc.ibaraki.ac.jp	8580	木	11:00 - 13:00	木	11:00 - 13:00
科	安江 健	516	takeshi.yasue.animal@vc.ibaraki.ac.jp	8576	水	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
	鎗田 孝	623	takashi.yarita.fsa@vc.ibaraki.ac.jp	8681	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
	吉田 悠太	517	yuta.yoshida.animal@vc.ibaraki.ac.jp	8573	木	15:05 - 16:50	木	15:05 - 16:50

学科	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
					前学期		後学期	
地域総合農学	池田 真也	729	shinya.ikeda.azabu@vc.ibaraki.ac.jp	8617	火	12:30 - 13:30	火	12:30 - 13:30
	伊丹 一浩	723	kazuhiro.itami.ano@vc.ibaraki.ac.jp	8630	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
	井上 栄一	316	eiichi.inoue.a@vc.ibaraki.ac.jp	8553	木	15:00 - 17:00	木	15:00 - 17:00
	臼井 靖浩	727	yasuhiro.usui.ne24@vc.ibaraki.ac.jp	8613	金	13:00 - 14:00	金	13:00 - 14:00
	内田 晋	722	susumu.uchida.envr@vc.ibaraki.ac.jp	8632	金	17:00 - 18:45	金	17:00 - 18:45
	岡山 毅	502	tsuyoshi.okayama.3@vc.ibaraki.ac.jp	8592	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	菊田 真吾	421	shingo.kikuta.pes@vc.ibaraki.ac.jp	8561	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	北嶋 康樹	422	yasuki.kitashima.kanabun@vc.ibaraki.ac.jp	8559	火	12:20 - 13:10	木	10:35 - 12:20
	木下 嗣基	730	tsuguki.kinoshita.00@vc.ibaraki.ac.jp	8635	水	13:10 - 14:55	水	13:10 - 14:55
	久保山 勉	509	tsutomu.kuboyama.a@vc.ibaraki.ac.jp	8643	火	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
	小寺 昭彦	228	akihiko.kotera.ktr@vc.ibaraki.ac.jp	8174	水	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	小松崎 将一	iFC 207	masakazu.komatsuzaki.fsc@vc.ibaraki.ac.jp	8707	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	佐藤 達雄	iFC 204	tatsuo.sato.strawberry@vc.ibaraki.ac.jp	8704	月	10:35 - 12:20	月	10:35 - 12:20
	庄山 紀久子	609	kikuko.shoyama.sx68@vc.ibaraki.ac.jp	8697	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
	高瀬 唯	125	yui.takase.landscape@vc.ibaraki.ac.jp	8631	火	13:10 - 14:55	火	13:10 - 14:55
	七夕小百合	iFC 206	sayuri.tanabata.i@vc.ibaraki.ac.jp	8706	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
	迫田 翠	314	midori.sakoda.uh46@vc.ibaraki.ac.jp	8551	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
	坂口 敦	229	atsushi.sakaguchi.pd52@vc.ibaraki.ac.jp	8591	水	13:10 - 14:55	水	13:10 - 14:55
	林 暁嵐	233	xiaolan.lin.eh59@vc.ibaraki.ac.jp	8600	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	中島 雅己	427	masami.nakajima.pp@vc.ibaraki.ac.jp	8563	月	15:00 - 16:00	月	15:00 - 16:00
科	長澤 淳	728	jun.nagasawa.wolf@vc.ibaraki.ac.jp	8638	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	西川 邦夫	724	kunio.nishikawa.agri@vc.ibaraki.ac.jp	8615	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
	福与 徳文	725	narufumi.fukuyo.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8616	水	13:10 - 14:55	水	13:10 - 14:55
	前田 滋哉	231	shigeya.maeda.15@vc.ibaraki.ac.jp	8601	金	16:20 - 17:30	金	16:20 - 17:30
	牧山 正男	227	masao.makiyama.0530@vc.ibaraki.ac.jp	8597	水	12:40 - 13:40	水	12:40 - 13:40
	望月 佑哉	317	yuya.mochizuki.fuji@vc.ibaraki.ac.jp	8554	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10

(遺伝子実験施設(GRC))

古谷 綾子	GRC 406	ayako.furutani.asano@vc.ibaraki.ac.jp	8756	水	12:20 - 13:10	水	12:10 - 13:10
-------	---------	---------------------------------------	------	---	---------------	---	---------------

(農学部学務グループ)

029(888)8522・8519

各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）

区分	項目	提出書類	提出の時期	提出先
紛失被害	学内で遺失物、所持品紛失、盗難等の被害にあった場合	学務グループ、図書館、生協事務室に届けられていることがありますので、ご相談ください。		
	学生証を紛失、破損した場合	学生証紛失届 学生証再交付願	速やかに	学務グループ
	証明書発行機、学内パソコンログインパスワードを忘れてしまった場合、変更したい場合	学務グループにご相談ください		
証明書	通学定期を購入するときに証明が必要な場合	通学証明書申請カード	受取希望日の3日前（休日除く）	学務グループ
	学割が必要な場合	証明書自動発行機で発行してください。 メンテナンス等の都合により、急に停止することがありますので、余裕をもって発行してください。 不明な点は学務グループにご相談ください。		
	在学証明書が必要な場合			
	成績証明書が必要な場合			
	健康診断証明書が必要な場合			
	入寮・在寮証明書が必要な場合	証明書交付願	受取希望日の3日前（休日除く）	学務グループ
カリキュラム	卒業見込証明書が必要な場合	学部4年次生または修士2年次生が発行できます。 証明書自動発行機で発行してください。		学務グループ
	履修に関すること	履修案内をよく読んでください。教務委員又は学務グループで相談に応じます。		
	期末試験に関すること	授業担当教員の指示に従ってください。期末試験時間割は掲示で確認してください。		
身分異動	成績に関すること	教務情報ポータルシステムで単位修得状況を閲覧できます。教務委員・学生担任（指導教員）で相談に応じます。		
	学生自身の住所・氏名・電話番号が変更になった場合	教務情報ポータルシステムで修正	速やかに	学務グループ
	保証人が変更、保証人住所が変更した場合	授業料納入保証書（変更届）・学籍簿	速やかに	
	休学する場合	休学願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに（P.10）	
	休学期間を延長する場合	休学延長願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに（P.10）	
	復学する場合	復学届、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに（P.10）	
課外活動	退学する場合	退学願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに（P.10）	
	学生団体を設立したい場合	団体届出書、団体員名簿、会則、他	速やかに	学務グループ
	学生団体を4月以降も団体を継続する場合	団体届出書、団体員名簿、他	毎年5月末	
	文書・ポスターを掲示したい場合	掲示する文書・ポスター	速やかに	
	課外活動等で学内の施設を利用したい場合	教室使用願	速やかに	
	課外活動等で生協食堂を利用したい場合	生協に確認後、「こぶし会館使用申込書」	速やかに	
自家用車	課外活動等で用具を使用したい場合	学務グループに申し出てください。	数量が多い場合は要予約	
	自家用車で通学したい場合	自動車入構届出書、任意保険証書（写）、自動車検査証（写）、運転免許証（写）	速やかに	学務グループ
	車種・登録番号等を変更したい場合	自動車検査証（写）	速やかに	
	交通事故を起こした・遭った場合	学生事故等届、学生教育研究災害傷害保険用の事故報告届	速やかに	

各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）

区分	項目	提出書類	提出の時期	提出先	
経済生活	授業料の減免、分納、徴収猶予を希望する場合	学務グループに相談してください。	4月、10月頃 掲示します。	学務グループ	
	奨学金・修学資金を希望する場合	各団体の所定様式	4月を中心に随時 掲示します。		
	アパートを探したい場合	学務グループで保管しているファイルで閲覧できません。			
	アルバイトを探したい場合				
就職活動等	就職活動の相談をしたい場合	学務グループで受け付けています。毎週月・水・金曜日は就職指導講師、毎週火・木曜日は就職相談専門員が相談に応じます。		学務グループ	
	インターンシップについて相談したい場合				
学生寮	入寮を希望する場合	入寮願、家庭状況調書、他	申請時	学務グループ	
	寮費の支払い方法を変更したい場合	寄宿料納入願変更届	変更を希望する30 日前までに		
	光熱水料を支払う場合	寮の会計長にご相談ください。			
	退寮を希望する場合	退寮願	退寮決定後速やかに		
健康管理	具合が悪くなった場合	直接保健室又は学務グループに申し出てください			
	カウンセラー・看護師に相談したい場合				
	健康に関することを相談したい場合				
	保健室の救急薬品を使用したい場合				
	正課、課外活動中、通学途中にケガをして通院入院した場合	窓口に申し出てください。	速やかに	保健室 又は学務グループ	
図書館	図書館に関すること	直接図書館サービスグループに申し出てください。			

茨城大学 農学部

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-2-1

TEL : 029-888-8522

FAX : 029-888-8545

HP : <https://www.agr.ibaraki.ac.jp/>